

看護教育課程概要

丹波市立看護専門学校

第9回生

目 次

1. 教育理念・教育目的・教育目標	1
2. ポリシー（方針）	2～4
3. 教育課程の構成	5
4. カリキュラム構造図	6
5. 教育計画表・教育進度表	7～10
6. 教科外教育計画	11・12
7. 基礎分野の教育内容	13～23
8. 専門基礎分野の教育内容	25～43
9. 専門分野Ⅰの教育内容	
1) 基礎看護学	45～65
10. 専門分野Ⅱの教育内容	
1) 成人看護学	67～74
2) 老年看護学	75～79
3) 小児看護学	80～84
4) 母性看護学	85～89
5) 精神看護学	90～95
11. 統合分野の教育内容	
1) 在宅看護論	97～101
2) 看護の統合と実践	102～106
12. 臨地実習	
1) 実習目的・目標	107
2) 臨地実習構成表	108・109
13. 看護技術一覧表	111～118
14. 看護師教育の技術項目と卒業時の到達度	119～122

教育理念

本校は、人としての倫理観、豊かな人間性、他者への思いやりの「こころ」をはぐくみ、保健医療福祉の分野で地域に貢献できる看護実践者を育成することを目指す。

また、状況を見極めて的確な判断をし、多職種と連携しながら、地域住民の健康的な生活を支援し、生涯にわたり看護を追究できる専門職業人を育成する。

教育目的

豊かな人間性と自己啓発できる能力を持ち、看護の専門職業人として必要な基礎的知識・技術・態度を習得し、地域に貢献できる看護実践者を育てる。

教育目標

1. 生命の尊厳と人権を尊重できる豊かな人間性を養う。
2. 看護の対象である人間を生活者としてとらえ、全人的に理解する能力を養う。
3. 健康上の課題を解決するため、科学的根拠に基づいて看護を実践できる基礎的能力を養う。
4. 保健・医療・福祉チームにおける看護師としての役割を認識し、多職種と協働できる基礎的能力を養う。
5. 自ら学び、考え、判断し、行動する姿勢、常に看護を追究する態度を養う。
6. 地域の健康課題に関心を持ち、看護の社会的役割を考える能力を養う。

ポリシー(方針)

1 アドミッションポリシー

- (1) 人間の尊厳を護り、保健医療福祉分野に貢献しようとする意欲がある人
- (2) 豊かな感性を持ち、柔軟に物事を考えられる人
- (3) 他者に関心を持ち、自分の考えを表現できる人
- (4) 目的に向かって自ら学び、責任ある行動がとれる人
- (5) 地域に根付き、地域医療に貢献する意欲がある人

2 カリキュラムポリシー

- (1) アドミッションポリシーを基盤として、ディプロマポリシーに沿った能力を持つ学生の育成を目指したカリキュラム編成とする。
- (2) 基準カリキュラムに基づいて、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の5つから編成する。
- (3) カリキュラムデザインは漸進的デザインを選択し、1年次からの学習内容を積み上げながら知識の定着を図る。
- (4) 基礎分野は、看護学の基礎となる科目として、また、豊かな人間性を養う教養科目として設定する。この分野は、自己の人間形成を図るとともに、倫理性・科学的思考の育成と人間を幅広く捉えることができる科目を設定し、専門基礎分野、専門分野の土台とする。
- (5) 専門基礎分野は、専門分野である看護学に関連し、看護学の基礎となる支持科目で構成する。これらの科目が、基礎看護学、各看護学の臨床看護に応用展開できるように系統のおよび関連性のある内容を抽出する。
- (6) 専門分野Ⅰは、すべての看護実践の基礎となる技術や理論の内容を包含する看護学の基盤として、基礎看護学を位置づける。専門分野Ⅰが専門分野Ⅱ(領域の看護学)に発展するように関連させる。
- (7) 専門分野Ⅱは、ライフサイクルにおける成長発達を理解し、あらゆる健康段階や場にある人への看護活動ができる能力を育成するため、人間の成長発達と健康段階を軸に教育内容を抽出する。
- (8) 統合分野は、卒業後、臨床現場にスムーズに適応することができることを目的とし、成人、老年、小児、母性そして精神の対象特性を踏まえ、看護の場の変化に対応した看護を学ぶ教育内容を抽出する。
- (9) 看護実践能力に必要な能力を、「人間理解」を中心に「人間関係形成能力」「看護の展開能力」「科学的根拠に基づいた知識」「健康状態に応じた看護実践能力」「看護者としての役割と調整」「自己教育力」「安全と倫理」の8つと捉えて、カリキュラム全体の中に取り入れるように配置する。

- (10) 科目の配列・順序性は、それぞれの教育内容の持つ理論体系に基づいて、系統性や関連性を考えて組織化する。
- (11) 教育内容の種類や性質に応じて、総論から各論、単純なものから複雑なもの、抽象から具象へなどを考慮した配列とする。
- (12) 知識を統合して学習したことが有効活用できるように、理論と体験を往還し、思考が繋がる教授方法で知識の定着を図る。
- (13) 筆記試験、課題レポート、演習点など、多様な評価方法を取り入れ、科目目標の到達度を評価する。

3 ディプロマポリシー

教育理念・教育目的のもとに、看護の対象を生活者としてとらえ、看護の視点で対象を総合的に理解した上で個を尊重した関わりができる。また、地域の健康課題に関心を持ち、将来、地域に貢献・定着できる看護師の育成を目指し、以下の基準を満たした学生に専門士を授与する。

- (1) 生命の尊厳を護り、専門職業人としての倫理観に基づいた行動が取れる人
- (2) 対象の個別に応じた看護を科学的に思考し、計画的に展開できる人
- (3) あらゆる対象の成長発達・健康状態に応じた看護が実践できる人
- (4) 保健・医療・福祉の連携と協働にいたる調整能力の必要性と、看護の役割が考えられる人
- (5) 看護における自己教育力を身につけ、自ら看護を追究し深めていく行動が取れる人
- (6) 社会動向に関心を持ち、生活を支え地域ニーズに貢献する意欲がある人

4 アセスメントポリシー

本校は、医療専門職業人として備えるべき資質を定めたディプロマポリシーに沿って、カリキュラムを構成する。学校の教育理念に基づき、学年ごと、科目ごとに、以下の指針に則って多面的に評価をする。

- (1) 講義・演習科目では、知識とその応用を査定する。
実習科目では、実習内容の到達、看護技術、態度、コミュニケーション能力を査定する。
- (2) 知識とその応用は筆記試験、総合的な能力は実習評価で査定する。
- (3) 筆記試験・実習評価は、数値化して達成度を査定する。
- (4) 評価基準の設定は、妥当性と客観性を考慮し、定期的に見直しを行い、次年度開始時に評価者(学生)にシラバスで提示する。
- (5) 年度ごとに進級判定・卒業判定という総括評価を行う。
- (6) 科目合否判定や総括評価に加え、随時、形成評価を行い到達目標に至る道程を明らかにする。
- (7) 科目履修は、設定された時間の3分の2以上の出席がなければ評価対象から外す。

	入学時考査	単位認定・進級判定	卒業時判定・卒業後
	アドミッションポリシーを満たす人材かどうかの判定	カリキュラムポリシーに沿って学修が進められているかどうかの評価	ディプロマポリシーを満たす人材になったかどうかの評価
機 関 レ ベ ル	入学時試験 1. 地域枠入学試験 ・国語総合（古文・漢文を除く） ・面接 ・調査書の内容 2. 一般入学試験 ・国語総合（古文・漢文を除く） ・数学Ⅰ、数学A ・コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ 英語表現Ⅰ・Ⅱ ・面接 ・調査書の内容	休学率 退学率 留年率 自己点検・自己評価	進路の決定状況 ・進学率、進学先 ・就職率、就職先 卒業生調査 ・就職先病院へのインタビュー ・卒業後のアンケート ・実習指導者の到達度評価
教 育 課 程 レ ベ ル		年次終了時の目標到達度評価 単位取得状況 カリキュラム評価 成績分布状況 模擬試験結果 社会人基礎力の評価	単位取得状況 国家試験合格率 教育目標の到達度アンケート 看護観の発表 講師評価 社会人基礎力の評価
科 目 レ ベ ル		終講試験の結果 各種レポート評価 成果発表 授業評価 実習内容の到達度評価 OSCE	

教育課程の構成

教科内科目

統合分野

位置づけ: 実践に近い学習により看護の知識・技術を統合する

専門分野Ⅱ

位置づけ: 対象に応じた看護を行うための専門的知識・技術・態度の基礎となる

専門分野Ⅰ

位置づけ: すべての看護学の基礎となり、専門分野Ⅱ・統合分野の土台となる

専門基礎分野

位置づけ: 基礎分野の科目を受けて専門分野の学習の基礎となる

基礎分野

位置づけ: 専門基礎分野、専門分野の土台となる

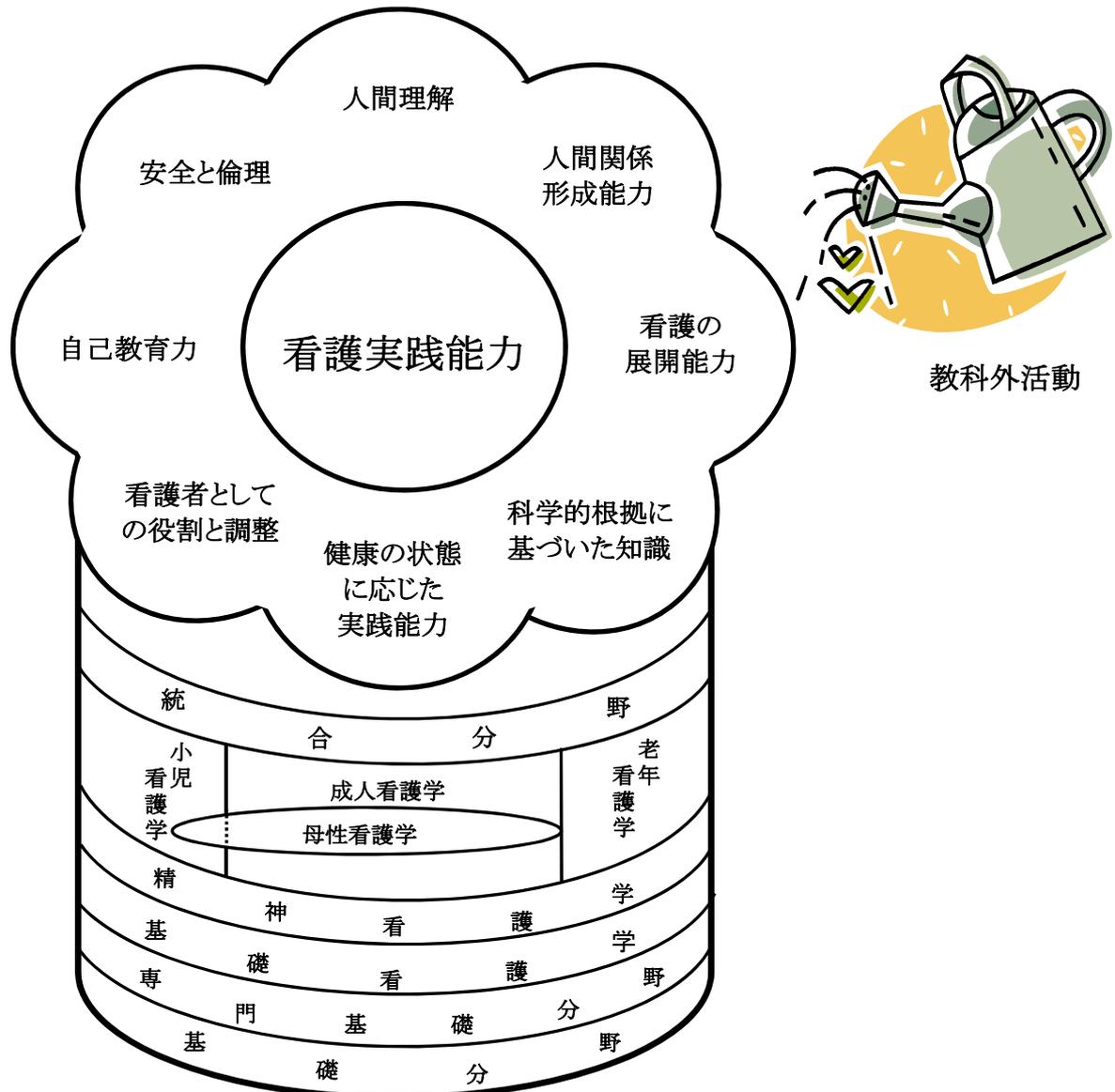
看護の統合と実践	統合実習																		
	医療安全 災害看護 マネジメント論 統合演習																		
在宅看護論	在宅看護論実習																		
	在宅看護概論 在宅看護方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ																		
領域別臨地実習																			
小児看護学	母性看護学	成人看護学	老年看護学																
小児看護学概論 小児看護学方法Ⅰ 小児看護学方法Ⅱ 小児看護学方法Ⅲ	母性看護学概論 母性看護学方法Ⅰ 母性看護学方法Ⅱ 母性看護学方法Ⅲ	成人看護学概論 成人看護学方法Ⅰ 成人看護学方法Ⅱ 成人看護学方法Ⅲ 成人看護学方法Ⅳ 成人看護学方法Ⅴ 成人看護学方法Ⅵ	老年看護学概論 老年看護学方法Ⅰ 老年看護学方法Ⅱ 老年看護学方法Ⅲ																
精神看護学		精神看護学概論 精神看護学方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ																	
基礎看護学	基礎看護学実習																		
	看護学概論 安全を守る技術 生活援助技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 診療に伴う技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 看護過程 看護過程演習 看護研究																		
<table border="1"> <tr> <td>公衆衛生学</td> <td>社会福祉</td> <td>関係法規</td> <td colspan="2">地域保健衛生活動</td> </tr> <tr> <td>病態生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ</td> <td>フィジカルアセスメント</td> <td>微生物学</td> <td>薬理学</td> <td>栄養学</td> </tr> <tr> <td>形態機能学</td> <td>生化学</td> <td>病理学</td> <td>症候学</td> <td>治療学</td> </tr> </table>					公衆衛生学	社会福祉	関係法規	地域保健衛生活動		病態生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	フィジカルアセスメント	微生物学	薬理学	栄養学	形態機能学	生化学	病理学	症候学	治療学
公衆衛生学	社会福祉	関係法規	地域保健衛生活動																
病態生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	フィジカルアセスメント	微生物学	薬理学	栄養学															
形態機能学	生化学	病理学	症候学	治療学															
<table border="1"> <tr> <td>論理学</td> <td>情報と統計</td> <td>哲学</td> <td>心理学</td> <td>生涯発達心理学</td> <td>教育学</td> </tr> <tr> <td>社会学</td> <td>人間関係論</td> <td>英会話</td> <td>英語</td> <td colspan="2">健康とスポーツ</td> </tr> </table>					論理学	情報と統計	哲学	心理学	生涯発達心理学	教育学	社会学	人間関係論	英会話	英語	健康とスポーツ				
論理学	情報と統計	哲学	心理学	生涯発達心理学	教育学														
社会学	人間関係論	英会話	英語	健康とスポーツ															

教科外活動

教科外活動を通して、看護師に求められる豊かな人間性や感性、幅広い教養を身につけ、自己の成長を促すことが出来る。また学生間の交流を深め、集団生活を通して主体性・協調性を養うと共に社会人としての自覚を持ち、視野を広げる。

【ディプロマポリシー】

1. 生命の尊厳を護り、専門職業人としての倫理観に基づいた行動が取れる人
2. 対象の個別に応じた看護を科学的に思考し、計画的に展開できる人
3. あらゆる対象の成長発達・健康状態に応じた看護が実践できる人
4. 保健・医療・福祉の連携と協働にいたる調整能力の必要性と、看護の役割が考えられる人
5. 看護における自己教育力を身につけ、自ら看護を追究し深めていく行動が取れる人
6. 社会動向に関心を持ち、生活を支え地域ニーズに貢献する意欲がある人



カリキュラム構造図

教育計画表

分野	教育内容	科目	内容	指定規則	単位	時間	1年生		2年生		3年生	
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学		13	1	30	1	30				
		情報と統計			1	30			1	30		
	人間と生活・社会の理解	哲学			1	30	1	30				
		心理学			1	30	1	30				
		生涯発達心理学			2	30	2	30				
		教育学			2	30	2	30				
		社会学			1	30	1	30				
		人間関係論			1	30	1	30				
		英会話			1	30	1	30				
		英語			1	30			1	30		
健康とスポーツ		1	30	1	30							
小 計				13	13	330	11	270	2	60	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学	細胞・組織	15	1	30	1	30				
		器官系Ⅰ	呼吸器系、循環器系		1	30	1	30				
		器官系Ⅱ	消化器系、腎・泌尿器系 生殖器系、内分泌系		1	30	1	30				
		器官系Ⅲ	骨・関節系、脳・神経系 感覚器系		1	30	1	30				
	生化学		1		30	1	30					
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学			1	15	1	15				
		症候学			1	30	1	30				
		治療学	手術療法・麻酔・放射線療法 内視鏡療法・物理療法		1	30	1	30				
		病態生理学Ⅰ	呼吸器系・循環器系 血液・造血器系・消化器系		1	30	1	30				
		病態生理学Ⅱ	脳・神経系、骨・関節系 腎・泌尿器系、内分泌・代謝系		1	30	1	30				
		病態生理学Ⅲ	小児、女性生殖器系 精神、感覚器系、歯・口腔		1	32			1	32		
		フィジカルアセスメント			1	30	1	30				
		微生物学			1	30	1	30				
	薬理学		1		30	1	30					
	栄養学		1		15	1	15					
健康支援と社会保障制度	公衆衛生学		1	15			1	15				
	社会福祉		2	30			2	30				
	関係法規		2	30			2	30				
	地域保健衛生活動	丹波市の特性と保健・医療・福祉の概要	1	15			1	15				
小 計				21	21	512	14	390	7	122	0	0
専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論		10	2	45	2	45				
		安全を守る技術	感染予防、創傷処置、ゼミナール		1	30	1	30				
		生活援助技術Ⅰ	体位・移動、環境		1	30	1	30				
		生活援助技術Ⅱ	活動・休息、衣生活・清潔		1	30	1	30				
		生活援助技術Ⅲ	食事・排泄、浣腸・導尿		1	30	1	30				
		診療に伴う技術Ⅰ	検査、与薬		1	30	1	30				
		診療に伴う技術Ⅱ	吸引・吸入・洗浄、安静・食事療法 輸液・輸血療法、救急法		1	30	1	30				
		診療に伴う技術Ⅲ	周手術期、ME機器		1	30	1	30				
		看護過程			1	15	1	15				
		看護過程演習	脳梗塞・胃潰瘍の事例		1	30	1	30				
	看護研究		1		30			1	30			
小 計				10	12	330	11	300	1	30	0	0
臨地実習	基礎	基礎看護学実習Ⅰ		3	1	45	1	45				
		基礎看護学実習Ⅱ			2	90			2	90		
小 計				3	3	135	1	45	2	90	0	0

専 門 分 野 II	成人 看護学	成人看護学概論	対象理解	6	1	15	1	15					
		成人看護学方法Ⅰ	保健と健康課題		1	30	1	30					
		成人看護学方法Ⅱ	クリティカルケア		1	15			1	15			
		成人看護学方法Ⅲ	周手術期看護		1	30			1	30			
		成人看護学方法Ⅳ	リハビリテーション期の看護		1	30	1	30					
		成人看護学方法Ⅴ	慢性期の看護		1	30			1	30			
		成人看護学方法Ⅵ	ターミナルケア		1	30			1	30			
	老年 看護学	老年看護学概論	対象理解	4	1	30	1	30					
		老年看護学方法Ⅰ	保健と健康課題		1	15			1	15			
		老年看護学方法Ⅱ	状態別看護		1	30			1	30			
		老年看護学方法Ⅲ	看護過程		1	30			1	30			
	小児 看護学	小児看護学概論	対象理解	4	1	15			1	15			
		小児看護学方法Ⅰ	保健と健康課題		1	30			1	30			
		小児看護学方法Ⅱ	状態別看護		1	30			1	30			
		小児看護学方法Ⅲ	状態別看護		1	30			1	30			
	母性 看護学	母性看護学概論	対象理解	4	1	15			1	15			
		母性看護学方法Ⅰ	保健と健康課題		1	30			1	30			
		母性看護学方法Ⅱ	妊娠期、分娩期		1	30			1	30			
		母性看護学方法Ⅲ	産褥期、新生児期		1	30			1	30			
	精神 看護学	精神看護学概論	対象理解	4	1	30	1	30					
		精神看護学方法Ⅰ	保健と健康課題		1	15			1	15			
		精神看護学方法Ⅱ	症状別看護		2	45			2	45			
		精神看護学方法Ⅲ	看護過程		1	15			1	15			
	小 計				22	24	600	5	135	19	465	0	0
	臨地 実習	成人	成人看護学実習Ⅰ	急性期・回復期	6	2	90					2	90
			成人看護学実習Ⅱ	慢性期		2	90					2	90
			成人看護学実習Ⅲ	終末期		2	90					2	90
		老年	老年看護学実習Ⅰ		4	2	90			2	90		
老年看護学実習Ⅱ				2		90			2	90			
小児看護学実習			2	2	90					2	90		
母性看護学実習			2	2	90					2	90		
精神看護学実習			2	2	90					2	90		
小 計				16	16	720	0	0	4	180	12	540	
統 合 分 野	在宅 看護論	在宅看護概論	対象理解	4	1	15			1	15			
		在宅看護方法Ⅰ	状態別看護		1	30			1	30			
		在宅看護方法Ⅱ	状態別看護		1	30			1	30			
		在宅看護方法Ⅲ	看護過程		1	30					1	30	
	看護の 統合と 実践	医療安全	ゼミナールⅠ・Ⅱ	4	1	30			1	30			
		災害看護			1	30					1	30	
		マネジメント論			1	15					1	15	
		統合演習			1	30					1	30	
	小 計				8	8	210	0	0	4	105	4	105
	臨地 実習	在宅	在宅看護論実習		2	2	90					2	90
統合		統合実習		2	2	90					2	90	
小 計				4	4	180	0	0	0	0	4	180	
総 計				97 (3000)	101	3017	42	1140	39	1052	20	825	

教育進度表

分野	科目		単位	学年 月 時間	1年生												2年生												3年生											
					4 5 6 7						9 # # # 1 2 3						4 5 6 7						9 # # # 1 2 3						4 5 6 7						9 # # # 1 2 3					
					前期						後期						前期						後期						前期						後期					
基礎分野	科学的思考の基盤	論理学	1	30	←→																																			
		情報と統計	1	30							←→																													
	人間と生活・社会の理解	哲学	1	30	←→																																			
		心理学	1	30	←→																																			
		生涯発達心理学	2	30	←→																																			
		教育学	2	30	←→																																			
		社会学	1	30							←→																													
		人間関係論	1	30	←→																																			
		英会話	1	30							←→																													
		英語	1	30													←→																							
		健康とスポーツ	1	30	←→																																			
小計		13	330																																					
専門基礎分野	人体の構造と機能	形態機能学	細胞・組織	1	30	←→																																		
			器官系Ⅰ	1	30	←→																																		
			器官系Ⅱ	1	30	←→																																		
			器官系Ⅲ	1	30	←→																																		
		生化学	1	30	←→																																			
	疾病の成り立ちと回復の促進	病理学	1	15	←→																																			
		症候学	1	30							←→																													
		治療学	1	30							←→																													
		病態生理学Ⅰ	1	30							←→																													
		病態生理学Ⅱ	1	30							←→																													
		病態生理学Ⅲ	1	32													←→																							
		フィジカルアセスメント	1	30	←→																																			
		微生物学	1	30	←→																																			
		薬理学	1	30							←→																													
	栄養学	1	15	←→																																				
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	15													←→																							
		社会福祉	2	30													←→																							
		関係法規	2	30							←→																													
		地域保健衛生活動	1	15													←→																							
	小計		21	512																																				
	専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護学概論	2	45	←→																																		
安全を守る技術			1	30	←→						←→																													
生活援助技術Ⅰ			1	30	←→																																			
生活援助技術Ⅱ			1	30	←→																																			
生活援助技術Ⅲ			1	30	←→																																			
診療に伴う技術Ⅰ			1	30							←→																													
診療に伴う技術Ⅱ			1	30							←→																													
診療に伴う技術Ⅲ			1	30							←→																													
看護過程			1	15	←→																																			
看護過程演習			1	30							←→																													
看護研究		1	30													←→																								
小計		12	330																																					
臨地実習		基礎	基礎看護学実習Ⅰ	1	45							↔																												
	基礎看護学実習Ⅱ		2	90													←→																							
小計		3	135																																					

教科外教育計画

教科外活動を通して、看護師に求められる豊かな人間性や感性、幅広い教養を身につけ、自己の成長を促すことが出来る。また学生間の交流を深め、集団生活を通して主体性・協調性を養うと共に社会人としての自覚を持ち、視野を広げる。

学校行事					
項目	行事月	時間数			ねらい
		1年生	2年生	3年生	
入学式	4月	4	4	4	本学校において、3年間の看護教育を受けようとする人に、入学の許可並びにその決意を自他共に養う。
卒業式	3月	4	4	4	本学校における教育が全て終了したことを認める。
入学時ガイダンス	4月	16			入学生に対して、学校生活をおくる為に必要な規則、諸手続きや教育内容等について情報を提供する。また、早期に学校生活に適応し、主体的・意欲的に学校生活がおくれるようにする。
宿泊研修	4月				集団活動の体験を通して規律性・協調性を養い、学生相互の交流を深める。集団の中で自己の役割を認識し、クラス作りの基盤とする。
芸術鑑賞	4月	6	6	6	芸術作品に触れることで自己の感性を磨き、看護師に求められる人間性を育む一助とする。
看護の日 看護ゼミナール	5月		4		看護の日にちなみ、看護の原点に返ることで看護学生として学ぶ姿勢を自覚し、看護への志を新たに学習活動を送れるようにする。
健康診断	4月	2	2	2	学生の健康管理の一貫として行い、疾病の予防、異常の早期発見および各学生が自己の健康管理ができるようにする。
防災訓練	9月	2	2	2	災害時の対処方法を経験し安全に対する知識と適切な行動を身につける。
地域交流	通年	6	6		地域でのボランティア活動を通して、地域貢献をするとともに、地域住民と交流を図る機会とする。
卒業記念講演	3月	2	2	2	卒業を控えた3年生に、社会人として、専門職業人として出発する記念として講演を聞き、より良い生き方の指標とする。
ホームルーム	通年	24	24	24	学校生活を有意義に過ごすために、クラス内の問題解決や行事への取り組みをとおして、主体性と協調性を養う。
合計		66	54	44	3学年合計時間数 164時間

教科関連内容					
項目	実施月	時間数			ねらい
		1年生	2年生	3年生	
音楽	4～7月 2～3月	15	2	3	校歌が歌えるようになることで、本学校の学生としての自覚が持てる。すばらしい音楽に触れることで、豊かな心を養う。
実習オリエンテーション	通年	6	28	12	実習に向けて各自の意識を高め、実習が効果的・主体的に実施できるようにする。
関西看護学生研究大会	10月		6		看護学生の研究的態度の伸長を目指すと共に、相互研鑽や交流の機会を図り、看護職への期待を高める。
医療安全ゼミナール	5月			6	人間の尊厳と生命の安全を守る看護者としての責任を考える機会とする。
実習前看護技術演習	1～3月	4	4		シミュレーション学習を行い、知識・技術を統合しながら看護実践につなげる能力を高める。
卒業前看護技術演習	3月			6	卒業前に、実践現場での看護援助を想定して、知識・技術の統合、状況判断をしながら看護実践できる能力を高める。
看護観の聴講	12月	4	4	16	自己の看護観を明確にし表現すると共に、他者の考えを聞き、看護を探究する姿勢を高める。
合計		29	44	43	3学年合計時間数 116時間

教科外活動 総合計時間数 280時間

科目名 : 論理学	(1)単位・(30)時間	履修時期 : 1年次	前期・後期
【科目目標】 論理的な思考の進め方およびその表現方法について理解し、その構造や法則に基づいて実施・活用できる能力を養う。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	はじめに	講義	
第2回	推測と推定 正しくない議論とは	講義	
第3回	根拠	講義	
第4回	主張	講義	
第5回	情報の明確さ	講義	
第6回	語の定義とは	講義	
第7回	原因と結果	講義	
第8回	一般化と統計	講義	
第9回	たとえの選び方、使い方	講義	
第10回	論理学用語と考え方	講義	
第11回	いろいろな文章 報告文	講義	
第12回	論理的に話すために	講義	
第13回	論理的に話すために 伝え方 3分スピーチ原稿の作り方	講義	
第14回	話す 順序立てて説明する、論理的に話す	演習 各自発表	
第15回	話す 順序立てて説明する 論理的に話す	演習 各自発表	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 論理的な考え方 伝え方 根拠に基づく正しい議論のために 狩野光伸 慶応義塾大学出版会			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師	職種	専門学校講師

科目名 : 情報と統計	(1)単位・(30)時間	履修時期 : 2年次 前期
【科目目標】 医療の情報化の進展を見すえ、情報の利用や管理について正しく理解し、情報を整理して活用するための基礎的知識と方法を学ぶ。		
回数	講義内容	学習方法
第1回	情報とは	講義
第2回	統計とは	講義
第3回	コンピュータへの入力の仕方	講義・演習
第4回	統計処理について	講義・演習
第5回	基本統計量の求め方	講義・演習
第6回	記述統計とは	講義・演習
第7回	推測統計とは	講義・演習
第8回	ヒストグラムの作成	講義・演習
第9回	度数分布表の作成	講義・演習
第10回	質問紙の作成	講義・演習
第11回	エクセル計算	講義・演習
第12回	グラフ・表の作り方	講義・演習
第13回	t検定	講義・演習
第14回	χ^2 検定	講義・演習
第15回	まとめ	講義
	終講試験	
【テキスト・参考書】 1. 看護・医療系のための情報科学入門 第2版 サイオ出版		
【成績評価方法】 筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種 大学教員

科目名：哲学		(1)単位・(30)時間		履修時期：1年次 前期	
【科目目標】 哲学的な思考を理解し、人間の生命や存在、価値について追究し、死生観、人生観など自己の価値観を確立するために必要な知識を学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	哲学とは			講義	レポート
第2回	哲学史 古代ギリシャ哲学～無知の知から ソクラテス			講義	レポート
第3回	プラトン アリストテレス			講義	レポート
第4回	中庸/カタルシス/聴くこと			講義	レポート
第5回	イギリス経験論 帰納法			講義	レポート
第6回	デカルト 演繹法			講義	レポート
第7回	枠組みを外す カント			講義	レポート
第8回	ヘーゲル 弁証法			講義	レポート
第9回	実存主義 キルケゴール/サルトル/カミュ/神谷美恵子			講義	レポート
第10回	ハイデガー 時間と死			講義	レポート
第11回	現象学 構造主義 フッサール/メルロポンティ/ソシュール/レヴィスト ロース			講義	レポート
第12回	生命倫理とは			講義	
第13回	出生前診断・卵子提供の現状			講義	
第14回	現状から意見を述べる			講義・演習	
第15回	インフォームドコンセントについて			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 使う哲学 斎藤 孝 ベスト新書518 KKベストセラーズ					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専門学校講師

科目名 : 心理学		(1)単位・(30)時間		履修時期 : 1年次 前期・後期	
【科目目標】 人間の心の動き、意識の働き、行動について学び、人間を多面的に理解する能力を養う。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	心理学とは何か			講義	
第2回	視覚と認知			講義	
第3回	欲求と動機づけ			講義	
第4回	葛藤と欲求不満			講義	
第5回	行動の変容と学習			講義	
第6回	学習と記憶			講義	
第7回	性格を理解する①			講義	
第8回	性格を理解する② 知能			講義	
第9回	人間の生涯と発達			講義	
第10回	自己と対人、社会、集団			講義	
第11回	社会、集団			講義	
第12回	ストレスの理解と対処			講義	
第13回	カウンセリング①			講義	
第14回	カウンセリング②、コミュニケーション			講義	
第15回	看護に活かす心理学			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 配布資料					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	臨床心理士

科目名 : 生涯発達心理学		(2)単位・(30)時間		履修時期 : 1年次 前期・後期	
【科目目標】 生涯にわたる発達段階での心理的、社会的、身体的な発達とそのための条件、発達を阻害する要因を学び、人間の発達の特徴を理解する。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	生涯発達心理学とは			講義	
第2回	胎児期、新生児期			講義	
第3回	乳児期			講義	
第4回	幼児期①			講義	
第5回	幼児期②			講義	
第6回	発達障害			講義	
第7回	児童期			講義	
第8回	思春期			講義	
第9回	青年期			講義	
第10回	成人前期			講義	
第11回	壮年期			講義	
第12回	向老期			講義	
第13回	老年期①			講義	
第14回	老年期②			講義	
第15回	まとめ			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 配布資料					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	臨床発達心理士

科目名 : 教育学	(2)単位・(30)時間	履修時期 : 1年次 前期
【科目目標】 人間形成における教育の意義と機能を学び、「人間の学び」のプロセスを理解し、看護実践に活用する教育技法の知識と方法を学ぶ。		
回数	講義内容	学習方法
第1回	教育とは	講義
第2回	教育の目的・目標	講義
第3回	人間の発達と教育① ー子どもへの教育的まなざしー	講義
第4回	人間の発達と教育② ー人間の教育の必要性ー	講義
第5回	家庭教育の現代的意味	講義
第6回	学校教育の成立と展開	講義
第7回	統一学校運動と新教育運動	講義
第8回	学校化社会の限界を超えて	講義
第9回	生涯学習の理念	講義
第10回	対話としての人間形成 ー聴くという行為に注目してー	講義
第11回	情報・消費社会における大人ー子ども関係の変化	講義
第12回	学校教育の現状と課題① ー学級崩壊ー	講義・演習
第13回	学校教育の現状と課題② ーいじめ問題ー	講義・演習
第14回	討議法 ーKJ法・フィッシュボーンー	講義・演習
第15回	討議法 ーKJ法・フィッシュボーンー	演習
	終講試験	
【テキスト・参考書】 1. 保育・教育を考える ー保育者論から教育論へー あいり出版 2. 系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院		
【成績評価方法】 筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種 大学教員

科目名：社会学		(1)単位・(30)時間		履修時期：1年次 後期	
【科目目標】 看護師として医療現場で働くにあたって、文化を「社会学」という視点から見つめ直すことが本講義の目的である。 「社会学」を社会とひととの関係を研究する学問と本講義では捉える。カルチュラル・スタディーズという文化研究手法を補助線にして、日常生活において「あたりまえ」に存在する文化を捉えなおしていく。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	イントロダクション:「社会学」と「看護師」の関係性			講義＋ディスカッション	
第2回	アイデンティティ:自己と社会			講義＋ディスカッション	
第3回	男性とは？ 女性とは？:ジェンダーとセクシャリティー			講義＋ディスカッション	
第4回	健康と福祉:送り手(医療従事者)と受け手(患者ならびにその家族)の関係からの検討			講義＋ディスカッション	
第5回	家族・階級・階層			講義＋ディスカッション	
第6回	社会におけるメディア			講義＋ディスカッション	
第7回	市民社会・地域社会			講義＋ディスカッション	
第8回	「幸福」を考える①			講義＋ディスカッション	
第9回	「幸福」を考える②			講義＋ディスカッション	
第10回	「グローバリゼーション」を考える			講義＋ディスカッション	
第11回	「労働」と「仕事」を考える			講義＋ディスカッション	
第12回	「犯罪」を考える			講義＋ディスカッション	
第13回	「文化」を考える①			講義＋ディスカッション	
第14回	「文化」を考える②			講義＋ディスカッション	
第15回	ふりかえり			講義＋ディスカッション	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院					
【成績評価方法】 平常評価 30% 筆記試験 70%					
担当講師	実務経験がある講師			職種	大学講師

科目名：人間関係論	(1)単位・(30)時間	履修時期：1年次 前期
【科目目標】 人間関係を築く目的と方法を学び、自ら主体的に関わる重要性を認識した上で、他者との関係形成が構築できる能力を養う。		
回数	講義内容	学習方法
第1回	人間関係の基本的意義	講義
第2回	人間関係の中の自己	講義
第3回	出会いからの人間関係	講義
第4回	言語的コミュニケーション、非言語的コミュニケーション	講義・演習
第5回	カウンセリングとその技法①	講義
第6回	カウンセリングとその技法②	演習
第7回	好きと嫌いの人間関係	講義
第8回	援助の人間関係（手助け心理学）	講義
第9回	支配と服従の人間関係	講義
第10回	集団の中の人間関係	講義
第11回	保健・医療・福祉援助における人間関係	講義
第12回	患者・家族との人間関係（闘病の人間関係）	講義
第13回	医療チームの人間関係	講義
第14回	現代社会と人間関係	講義
第15回	まとめ	講義
	終講試験	
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院		
【成績評価方法】 筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種 大学講師

科目名 : 英会話		(1)単位・(30)時間		履修時期 : 1年次 後期	
【科目目標】 日常および医療場面における簡単な英会話ができる能力を身につけ、国際社会に対応できるコミュニケーション能力を養う。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	Please call me Beth.			演習	
第2回	How do you spend your day ?			演習	
第3回	How much is it ?			演習	
第4回	Do you like rap ?			演習	
第5回	Tell me about your family.			演習	
第6回	How oftendo you exercise ?			演習	
第7回	We had a great time !			演習	
第8回	What is your neighborhood like ?			演習	
第9回	What does she look like ?			演習	
第10回	Have you ever eidden a came ! ?			演習	
第11回	It is a very exciting place !			演習	
第12回	It really work !			演習	
第13回	May I take your order ?			演習	
第14回	The biggest and the best !			演習	
第15回	I am going to a soccer match.			演習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. EVOLVE 1 CAMBRIDGE					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	英会話教室講師

科目名 : 英語	(1)単位・(30)時間	履修時期 : 2年次	前期・後期
【科目目標】 医用英語を理解し、英文読解の基礎的能力を養う。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	Healthy Japan	講義・演習	
第2回	Health and Evolutionary Psychology	講義・演習	
第3回	Natural Defense	講義・演習	
第4回	Race and Health	講義・演習	
第5回	Understanding Medical Studies	講義・演習	
第6回	Cancer	講義・演習	
第7回	The World's Most Common Disease	講義・演習	
第8回	Instant Noodles	講義・演習	
第9回	Supplements	講義・演習	
第10回	The New Global Epidemic	講義・演習	
第11回	Health and Genes	講義・演習	
第12回	Mental Health	講義・演習	
第13回	Addictions	講義・演習	
第14回	Antibiotics	講義・演習	
第15回	The New Nutrition	講義・演習	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. Stay Healthy CENGAGE Learning、2009 その他、学習用資料や練習問題は講義内で配布する 参考文献等も、必要に応じて講義内で適宜指示する			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師	職種	大学講師

科目名 : 健康とスポーツ	(1)単位・(30)時間	履修時期 : 1年次 前期
【科目目標】 1. スポーツを通して心身の健康の維持・増進を目指す。 2. チームのメンバーとチームワークを発揮しながら、スポーツの楽しさを味わう。		
回数	講義内容	学習方法
第1回	オリエンテーション	講義
第2回	ストレスとうまく付き合う(ストレッチなど)	講義・演習
第3回	ラケット種目 (バドミントン)	実技
第4回	ラケット種目 (バドミントン)	実技
第5回	ソフトバレーボール	実技
第6回	ソフトバレーボール	実技
第7回	ソフトバレーボール	実技
第8回	チームワークを発揮するために	講義・演習
第9回	ポートボール	実技
第10回	ポートボール	実技
第11回	ボールスポーツ(チームワーク)①	実技
第12回	ボールスポーツ(チームワーク)②	実技
第13回	基礎体力アップ(個人&チーム)①	実技
第14回	基礎体力アップ(個人&チーム)②	実技
第15回	総復習	実技
	終講試験	
【テキスト・参考書】 必要に応じて資料を配布する また、実技種目はあくまで予定であり、変更の可能性もあり		
【成績評価方法】 レポート課題 (30点) 授業中の実技状況(積極性、チーム内における役割、チームの貢献度など) (70点)		
担当講師	野口 研治	職種 大学講師

科目名：形態機能学 (細胞・組織)		(1)単位・(30)時間	履修時期：1年次 前期・後期	
【科目目標】 人体を構成する組織、器官の構造と機能、およびそれらの相互関係について系統的に学び、 生体機能の正常像と生命現象の仕組みを学ぶ。				
回数	講義内容		学習方法	
第1回	ガイダンス 細胞の構造と機能		講義	
第2回	人体を構成する細胞		講義	
第3回	皮膚と膜		講義	
第4回	体熱産生と体温		講義	
第5回	細胞分裂と遺伝情報		講義	
第6回	染色体の構造と異常		講義	
第7回	先天異常の分類		講義	
第8回	遺伝形式と多因子遺伝病		講義	
第9回	造血と細胞の種類		講義	
第10回	凝固と止血のしくみ、線溶		講義	
第11回	体液性免疫と血球細胞		講義	
第12回	体液性免疫と血球細胞		講義	
第13回	血液型と輸血		講義	
第14回	ホメオスタシス		講義	
第15回	フードバックの機構		講義	
	終講試験			
【テキスト・参考書】 1. ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 2. 新版 からだの地図帳 講談社 3. 新版 病気の地図帳 講談社				
【成績評価方法】 筆記試験				
担当講師	実務経験がある講師		職種	臨床検査技師

科目名：形態機能学 (器官系Ⅰ)		(1)単位・(30)時間		履修時期：1年次 前期・後期	
【科目目標】 人体を構成する組織、器官の構造と機能、およびそれらの相互関係について系統的に学び、 生体機能の正常像と生命現象の仕組みを学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	循環器系Ⅰ (心臓)			講義	
第2回	循環器系Ⅰ (心臓)			講義	
第3回	循環器系Ⅰ (心臓)			講義	
第4回	循環器系Ⅱ (血管)			講義	
第5回	循環器系Ⅱ (血管)			講義	
第6回	循環器系Ⅲ (リンパ系)			講義	
第7回	循環器系Ⅲ (リンパ系)			講義	
第8回	呼吸器系Ⅰ (気管と肺)			講義	
第9回	呼吸器系Ⅰ (気管と肺)			講義	
第10回	呼吸器系Ⅱ (呼吸運動と調節)			講義	
第11回	呼吸器系Ⅱ (呼吸運動と調節)			講義	
第12回	呼吸器系Ⅱ (呼吸運動と調節)			講義	
第13回	呼吸器系Ⅲ (ガス交換)			講義	
第14回	呼吸器系Ⅲ (ガス交換)			講義	
第15回	呼吸器系Ⅲ (ガス交換)			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 2. 新版 からだの地図帳 講談社 3. 新版 病気の地図帳 講談社					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	医師

科目名：形態機能学 (器官系Ⅱ)		(1)単位・(30)時間	履修時期：1年次 前期	
【科目目標】 人体を構成する組織、器官の構造と機能、およびそれらの相互関係について系統的に学び、 生体機能の正常像と生命現象の仕組みを学ぶ。				
回数	講義内容		学習方法	
第1回	消化器系Ⅰ (食道、胃、小腸、大腸)		講義	
第2回	消化器系Ⅰ (食道、胃、小腸、大腸)		講義	
第3回	消化器系Ⅱ (肝臓、胆のう、膵臓)		講義	
第4回	消化器系Ⅱ (肝臓、胆のう、膵臓)		講義	
第5回	消化器系Ⅲ (消化と吸収、排泄)		講義	
第6回	消化器系Ⅲ (消化と吸収、排泄)		講義	
第7回	泌尿器系Ⅰ (腎臓)		講義	
第8回	泌尿器系Ⅰ (腎臓)		講義	
第9回	泌尿器系Ⅱ (膀胱と排尿)		講義	
第10回	生殖器系Ⅰ (女性)		講義	
第11回	生殖器系Ⅱ (男性)		講義	
第12回	内分泌器Ⅰ (膵臓)		講義	
第13回	内分泌器Ⅰ (副腎)		講義	
第14回	内分泌器Ⅲ (甲状腺)		講義	
第15回	内分泌器Ⅳ (その他)		講義	
	終講試験			
【テキスト・参考書】 1. ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 2. 新版 からだの地図帳 講談社 3. 新版 病気の地図帳 講談社				
【成績評価方法】 筆記試験				
担当講師	実務経験がある講師		職種	臨床検査技師

科目名：形態機能学 (器官系Ⅲ)		(1)単位・(30)時間		履修時期：1年次 前期	
【科目目標】 人体を構成する組織、器官の構造と機能、およびそれらの相互関係について系統的に学び、 生体機能の正常像と生命現象の仕組みを学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	神経系の分類			講義	
第2回	神経組織の構造と機能			講義	
第3回	中枢神経系1			講義	
第4回	中枢神経系2			講義	
第5回	末梢神経系1			講義	
第6回	末梢神経系2			講義	
第7回	生体のリズム			講義	
第8回	骨と骨格、頭蓋、体幹の骨格			講義	
第9回	体肢の骨格、関節の構造と種類			講義	
第10回	筋の種類・機能			講義	
第11回	骨格筋の機能と構造			講義	
第12回	眼球の機能と構造、主な検査と治療			講義	
第13回	聴覚の機能と構造、主な検査と治療			講義	
第14回	臭覚・味覚の機能と構造			講義	
第15回	体性感覚の機能と構造			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版 2. 新版 からだの地図帳 講談社 3. 新版 病気の地図帳 講談社 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学12 皮膚 医学書院 5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学13 眼 医学書院 6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	医師

科目名 : 生化学		(1) 単位・(30) 時間		履修時期 : 1 年次 前期	
【科目目標】 人間を構成している物質の性質と機能を理解し、生命現象を科学的に判断するための基礎的知識を学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	基礎化学・生物			講義	
第2回	基礎化学			講義	
第3回	タンパク質の化学			講義	
第4回	タンパク質の化学			講義	
第5回	酵素 糖質の化学			講義	
第6回	糖代謝			講義	
第7回	糖代謝			講義	
第8回	脂質の化学 脂質代謝			講義	
第9回	脂質代謝 アミノ酸代謝			講義	
第10回	アミノ酸代謝 核酸の化学			講義	
第11回	核酸の化学 タンパク合成			講義	
第12回	核酸(タンパク合成)ホルモン			講義	
第13回	ホルモン			講義	
第14回	ビタミン			講義	
第15回	免疫			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. ここが知りたい! 生化学 ～生命のふしぎを理解する～ 学術研究出版					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	大学教員

科目名：病理学		(1)単位・(15)時間		履修時期：1年次 前期	
【科目目標】 病気の原因とそれに対する生体反応、病気の経過・転帰から、全身の各臓器がどのように組織変化をもたらすかを学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	病理学とは 老化と死			講義	
第2回	先天異常と遺伝子異常			講義	
第3回	代謝障害			講義	
第4回	循環障害			講義	
第5回	炎症と免疫			講義	
第6回	感染症			講義	
第7回	腫瘍			講義	
第8回 (45分)	病理学のまとめ			演習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進1 病理学 医学書院					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	医師

科目名：症候学		(1)単位・(30)時間		履修時期：1年次 後期	
【科目目標】 臨床で頻繁に遭遇する症状の概要と病態生理、病因、随伴症状などについて理解し、看護判断に活用できる基礎的知識を学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	疼痛の概要と病態生理			講義	
第2回	発熱の概要と病態生理			講義	
第3回	ショックの概要と病態生理			講義	
第4回	不整脈の概要と病態生理			講義	
第5回	貧血の概要と病態生理			講義	
第6回	出血傾向の概要と病態生理			講義	
第7回	咳嗽・喀痰の概要と病態生理			講義	
第8回	呼吸困難の概要と病態生理			講義	
第9回	肥満の概要と病態生理			講義	
第10回	やせの概要と病態生理			講義	
第11回	便秘の概要と病態生理			講義	
第12回	下痢の概要と病態生理			講義	
第13回	黄疸の概要と病態生理			講義	
第14回	脱水の概要と病態生理			講義	
第15回	浮腫の概要と病態生理			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進2 病態生理学 医学書院					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	臨床検査技師

科目名：治療学		(1)単位・(30)時間	履修時期：1年次 後期
【科目目標】 疾病構造の変化や治療技術の向上に伴う多様化した治療方法の内容を理解し、治療が及ぼす影響を学ぶ。			
回数	講義内容		学習方法
第1回	手術療法	手術療法の目的と意義、分類	講義
第2回	手術療法	術前・術中・術後の管理	講義
第3回	手術療法	生体反応（創傷治癒・神経・内分泌反応）	講義
第4回	手術療法	生体反応（代謝系反応・サイトカイン）	講義
第5回	麻酔	麻酔の知識	講義
第6回	麻酔	全身麻酔法 局所麻酔法	講義
第7回	放射線療法	放射線療法とは	講義
第8回	放射線療法	放射線の種類と特徴・適応	講義
第9回	放射線療法	放射線障害と防御	講義
第10回	放射線療法	放射線科の見学	講義
第11回	内視鏡療法	内視鏡的治療の目的	講義
第12回	内視鏡療法	内視鏡的治療の実際	講義
第13回	リハビリテーション療法	リハビリテーション療法の概念	講義
第14回	リハビリテーション療法	リハビリテーション療法の目的・対象	講義
第15回	リハビリテーション療法	リハビリテーション療法の種類と特徴	講義
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 3. よくわかる周手術期看護 学研 4. 周手術期看護2 術中／術後の生体反応と急性期看護 第3版 医歯薬出版株式会社			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師		職種 医師

科目名：病態生理学 I		(1)単位・(30)時間	履修時期：1年次 後期
【科目目標】 系統別の主な疾患の病態生理、検査、治療について理解し、看護判断、看護行為に活用できる基礎的知識を学ぶ。			
回数	講義内容		学習方法
第1回	呼吸器	感染症、間質性肺炎	講義
第2回	呼吸器	慢性閉塞性肺疾患、肺血栓症	講義
第3回	呼吸器	気道疾患	講義
第4回	呼吸器	肺がん、気胸、肺結核	講義
第5回	循環器	虚血性心疾患	講義
第6回	循環器	心不全、大動脈疾患、高血圧	講義
第7回	循環器	心臓弁膜症、心筋疾患	講義
第8回	血液・造血器	貧血	講義
第9回	血液・造血器	白血球の異常（低下・増加・造血器・腫瘍）	講義
第10回	血液・造血器	出血性疾患	講義
第11回	消化器	食道・胃の疾患	講義
第12回	消化器	小腸の疾患、腹膜疾患	講義
第13回	消化器	大腸の疾患、乳がん	講義
第14回	消化器	肝臓の疾患、胆嚢の疾患	講義
第15回	消化器	膵炎、膵臓がん	講義
		終講試験	
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学2 呼吸器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学4 血液・造血器 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器 医学書院 5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 6. よくわかる周手術期看護 学研			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師		職種 医師

科目名：病態生理学Ⅱ		(1)単位・(30)時間	履修時期：1年次 後期
【科目目標】 系統別の主な疾患の病態生理、検査、治療について理解し、看護判断、看護行為に活用できる基礎的知識を学ぶ。			
回数	講義内容		学習方法
第1回	脳・神経	脳内出血、脳梗塞、高次機能障害	講義
第2回	脳・神経	くも膜下出血、脳腫瘍	講義
第3回	脳・神経	水頭症、脳外傷	講義
第4回	骨・関節	骨折、骨肉腫	講義
第5回	骨・関節	骨・関節の炎症性疾患	講義
第6回	骨・関節	末梢神経障害、腰椎椎間板ヘルニア	講義
第7回	腎臓系	腎不全、糸球体腎炎、間質性腎炎	講義
第8回	腎臓系	腎結石	講義
第9回	腎臓系	ネフローゼ症候群	講義
第10回	泌尿器系	前立腺肥大症、尿路・生殖器の腫瘍	講義
第11回	泌尿器系	尿路・生殖器の感染症、男性の不妊症	講義
第12回	内分泌・代謝	内分泌疾患	講義
第13回	内分泌・代謝	糖尿病	講義
第14回	内分泌・代謝	メタボリックシンドローム	講義
第15回	内分泌・代謝	膠原病、HIV	講義
		終講試験	
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学10 運動器 医学書院 5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 6. 新版 病気の地図帳 講談社			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師		職種 医師

科目名：病態生理学Ⅲ		(1)単位・(32)時間	履修時期：2年次 前期
【科目目標】 系統別の主な疾患の病態生理、検査、治療について理解し、看護判断、看護行為に活用できる基礎的知識を学ぶ。			
回数	講義内容		学習方法
第1回	感覚器	熱傷、表在性皮膚疾患	講義
第2回	感覚器	微生物の関与、発疹学	講義
第3回	小児	染色体異常、低出生体重児の疾患、新生児の疾患	講義
第4回	小児	代謝性疾患、アレルギー性疾患、感染症	講義
第5回	小児	呼吸器疾患、循環器疾患	講義
第6回	小児	消化器疾患、血液・造血器疾患	講義
第7回	小児	腎・泌尿器疾患、神経疾患	講義
第8回	母性・女性	性の分化、子宮がん、子宮内膜症、絨毛性疾患	講義
第9回	母性・女性	性感染症、不妊症、妊娠高血圧症、糖尿病合併妊婦	講義
第10回	母性・女性	血栓症、周産期の出血	講義
第11回	精神	統合失調症	講義
第12回	精神	躁鬱病	講義
第13回	精神	発達障害	講義
第14回	精神	アルコール依存症	講義
第15回	精神	認知症	講義
第16回	歯・口腔	齲蝕、歯肉炎、辺縁性歯周炎	講義
		終講試験	
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学12 皮膚 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学15 歯・口腔 医学書院 5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院 6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院 7. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師		職種 医師

科目名 : フィジカルアセスメント		(1) 単位・(30) 時間	履修時期 : 1年次 前期・後期	
【科目目標】 形態機能学で学習した知識が看護とどのように関連しているのかを考え、看護実践につなげるための観察方法と分析方法を学ぶ。				
回数	講義内容		学習方法	
第1回	フィジカルアセスメントとは		講義	
第2回	視診 触診 打診 聴診		講義	
第3回	診察の介助 身体計測 検査データの見方		講義	
第4回	体温測定 温罨法と冷罨法		講義・校内実習	
第5回	脳神経の観察		講義・校内実習	
第6回	呼吸器系・循環器系の観察		講義・校内実習	
第7回	脈拍測定 血圧測定		講義	
第8回	血圧測定の準備		校内実習	
第9回	バイタルサイン測定の実際		校内実習	
第10回	バイタルサイン測定の実際		校内実習	
第11回	感覚器系の観察		講義	
第12回	外皮系の観察		講義	
第13回	消化器系の観察		講義・校内実習	
第14回	筋肉・骨格系の観察		講義・校内実習	
第15回	記録・報告		講義・演習	
	終講試験			
【テキスト・参考書】 1. はじめてのフィジカルアセスメント 第2版 メヂカルフレンド社 2. 看護過程に沿った対症看護 第5版 一病態生理と看護のポイントー 学研 3. 看護技術プラクティス 第4版 学研 4. ケアに活かす検査値ガイド 第2版 照林社				
【成績評価方法】 筆記試験				
担当講師	実務経験がある講師		職種	専任教員

科目名：微生物学		(1)単位・(30)時間		履修時期：1年次 前期	
【科目目標】 微生物の特徴と生体におよぼす影響について学び、その対応について理解する。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	微生物・医動物の概論			講義	
第2回	グラム染色 細菌の種類 検査材料			講義	
第3回	生体防御機構(自然免疫、獲得免疫)			講義	
第4回	免疫グロブリンとアレルギー反応について			講義	
第5回	標準予防策について			講義	
第6回	インフルエンザと結核			講義	
第7回	消化器感染症			講義	
第8回	1～7回のまとめ 手洗い			講義	
第9回	肝炎と針刺し事故			講義	
第10回	尿路感染症 性感染症			講義	
第11回	皮膚に発疹が出現する感染症			講義	
第12回	代表的な感染症と臨床微生物			講義	
第13回	日和見感染症			講義	
第14回	ワクチン接種 滅菌と消毒			講義	
第15回	感染経路別予防策 まとめ			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門基礎 疾病の成り立ちと回復の促進4 微生物学 医学書院					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	臨床検査技師

科目名：薬理学		(1)単位・(30)時間		履修時期：1年次 後期	
【科目目標】 薬物の特徴、作用機序、人体への影響について学び、薬物の安全な取り扱いと系統別の主な薬物について学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	薬理学総論 薬の基本			講義	
第2回	薬理学総論 相互作用の基礎			講義	
第3回	薬理学総論 薬物動態学			講義	
第4回	抗感染症薬 総論			講義	
第5回	抗感染症 耐性メカニズム			講義	
第6回	抗がん剤			講義	
第7回	免疫治療薬			講義	
第8回	自律神経作動薬			講義	
第9回	抗高血圧薬について			講義	
第10回	狭心症治療薬について			講義	
第11回	不整脈薬について			講義	
第12回	疼痛治療について			講義	
第13回	脂質異常症治療薬			講義	
第14回	糖尿病治療薬について			講義	
第15回	薬理まとめ			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進3 薬理学 医学書院					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	薬剤師

科目名：栄養学		(1)単位・(15)時間		履修時期：1年次 後期	
【科目目標】 人間にとっての栄養の意義を理解し、健康な生活を営むための適正な栄養について学ぶ。 また、食事療法の基本を理解する。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	臨床栄養学の意義と看護			講義	
第2回	栄養素の分類			講義	
第3回	エネルギー消費量 日本人の食事摂取基準			講義	
第4回	栄養アセスメント、食文化、運動と栄養			講義	
第5回	人生各期における健康生活と栄養			講義	
第6回	検査のための食事 治療による回復を促すための食事			講義	
第7回	嚥下障害のある人のための食事 食事指導の実際			講義	
第8回 (45分)	栄養学のまとめ			演習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能3 栄養学 医学書院					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	管理栄養士

科目名 : 公衆衛生学	(1)単位・(15)時間	履修時期 : 2年次 後期
【科目目標】 公衆衛生に関する統計・情報を理解し、組織的な保健活動について学ぶ。		
回数	講義内容	学習方法
第1回	公衆衛生とは プライマリーヘルスケア	講義
第2回	疫学と健康指標 ヘルスプロモーション	講義
第3回	超少子高齢社会の保健所市町村対策	講義
第4回	地域保健 健康作りと地域 災害と保健活動	講義
第5回	対象別公衆衛生の実践 がん対策、感染症対策	講義
第6回	対象別公衆衛生の実践 地域精神保健を支えるための仕組み	講義
第7回	対象別公衆衛生の実践 難病支援	講義
第8回 (45分)	公衆衛生学のまとめ	講義
	終講試験	
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院 2. 国民衛生の動向		
【成績評価方法】 課題レポート (60点) 筆記試験 (40点)		
担当講師	実務経験がある講師	職種 医師・保健師

科目名：社会福祉		(2) 単位・(30) 時間		履修時期：2年次 前期・後期	
【科目目標】 社会保障・社会福祉制度や政策について学び、医療と福祉の連携の意義を理解する。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	現代社会と社会福祉の理念			講義	
第2回	社会福祉と社会保障			講義	
第3回	社会福祉の法律と行政			講義	
第4回	社会福祉従事者			講義	
第5回	社会福祉の民間活動			講義	
第6回	社会福祉における相談援助			講義	
第7回	社会福祉における権利			講義	
第8回	生活保護			講義	
第9回	児童家庭福祉			講義	
第10回	高齢者福祉と介護保険			講義	
第11回	障害者福祉			講義	
第12回	地域福祉			講義	
第13回	保健医療福祉の制度(医療・年金・所得保障等)			講義	
第14回	保健医療福祉の課題			講義	
第15回	社会福祉実践と医療・看護との連携			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度3 社会保障・社会福祉 医学書院					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	大学教員

科目名：関係法規		(2)単位・(30)時間		履修時期：2年次 前期	
【科目目標】 医療および保健衛生に関する法令と制度を理解し、保健医療活動や看護師の業務と法律の関係性について学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	法の概念			講義	
第2回	労働衛生に関する法規			講義	
第3回	環境・食品・公害に関する法律			講義	
第4回	医療の変遷と医療法			講義	
第5回	医療法と診療報酬、医療法施行規則			講義	
第6回	保険に関する法律			講義	
第7回	保健師助産師看護師法、保健師助産師看護師施行令			講義	
第8回	看護師等の人材確保の促進に関する法律			講義	
第9回	関係職種についての法律			講義	
第10回	薬物に関する法律、感染症に関する法律、医療を支える法律			講義	
第11回	領域別看護に関係する法律			講義	
第12回	福祉に関する法律			講義	
第13回	高齢者の福祉に関する法律			講義	
第14回	小児の福祉に関する法律			講義	
第15回	障害者の福祉に関する法律			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度4 看護関係法令 医学書院 2. 看護六法 2021年度版					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	大学教員・社会福祉士

科目名：地域保健衛生活動		(1) 単位・(15) 時間	履修時期：2年次 後期
【科目目標】 公衆衛生学、社会福祉論を踏まえ、具体的に「丹波市」を題材として、医療や保健・福祉の現状（地域特性、社会資源、地域の健康課題、地域を基盤にした健康生活支援課題等）を理解し、地域社会における医療の位置づけ及び必要性を学ぶ。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	丹波市の特徴（人口、人口動態、地理的環境、社会的環境）	講義	
第2回	成人に対する保健活動（地域における保健活動の実際①）	講義	
第3回	成人に対する保健活動（地域における保健活動の実際②）	講義	
第4回 (45分)	成人に対する保健活動（地域における保健活動の実際③）	演習	
第5回	小児における保健活動（地域における子育て支援）	講義	
第6回	小児における保健活動（乳幼児の健康診査と保健指導）	講義	
第7回	母性における保健活動（母子保健対策）	講義	
第8回	精神における保健活動（精神障害者の保健医療福祉）	講義	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 健康丹波21 2. 国民衛生の動向 3. 系統看護学講座 専門基礎 健康支援と社会保障制度2 公衆衛生 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 5. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 6. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院			
【成績評価方法】 課題レポート			
担当講師	実務経験がある講師	職種	保健師

基礎看護学 15単位 (465時間)

目的：看護の対象である人間を総合的に捉え、健康の意義と社会における看護の役割を理解し、科学的根拠に基づく看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目的	
看護学概論	2	45	看護の概念をとらえ、その本質を理解すると共に、保健・医療・福祉における看護の機能と役割を学ぶ。	
安全を守る技術	1	30	生命の安全を守る看護者としての責任を果たすための基礎知識を学ぶ。	
生活援助技術Ⅰ	1	30	看護ケアを科学的に検証するためのエビデンスに基づく援助方法を学ぶ。	1. 体位・移動 12
生活援助技術Ⅱ	1	30		2. 環境 18
生活援助技術Ⅲ	1	30		1. 活動・休息 4
				2. 衣生活・清潔 26
診療に伴う技術Ⅰ	1	30	健康障害をもつ対象を理解し、治療に応じた看護実践の方法を学ぶ。	1. 食事・排泄 16
診療に伴う技術Ⅱ	1	30		2. 浣腸・導尿 14
診療に伴う技術Ⅲ	1	30		1. 検査 12
				2. 与薬 18
診療に伴う技術Ⅳ	1	30		1. 吸引・吸入・洗浄 12
				2. 安静・食事療法 6
				3. 輸液・輸血療法 6
				4. 救急法 6
				1. 周手術期 18
				2. ME機器 12
看護過程	1	15	看護を科学的に思考して看護実践に活用できる能力を養う。	
看護過程演習	1	30	統合体としての対象者を包括的にアセスメントし、実践的看護に活用できる能力を養う。	
看護研究	1	30	看護を発展的に思考するための研究のプロセスを理解し、研究的態度を身につける。	
小計	12	330		
基礎看護学実習Ⅰ	1	45	患者の基本的欲求を把握し、問題解決思考を用いて援助の必要性がわかり、日常生活の援助ができる。	
基礎看護学実習Ⅱ	2	90	受け持ち患者の援助を通して看護過程の展開プロセスが理解できる。	
小計	3	135		
総計	15	465		

科目名：看護学概論		(2)単位・(45)時間		履修時期：1年次 前期・後期	
【科目目標】 1. 看護の主要概念である「人間」・「健康」・「環境」・「看護」とその関係について学び、看護の本質を理解する。 2. 看護の歴史的な変遷や社会における看護の役割・機能について理解し、自らの看護観を構築していくための手がかりとする。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	看護の定義 看護専門職			講義	
第2回	医療法の変遷と医療			講義	
第3回	看護教育体制と看護スペシャリスト			講義	
第4回	看護の変遷と歴史			講義	
第5回	ナイチンゲールの生涯			講義	
第6回	看護の対象			講義	
第7回	健康とは			講義	
第8回	患者を支える関連職種と業務			演習	
第9回	患者を支える関連職種と業務			発表	
第10回	保健・医療・福祉システム			講義	
第11回	看護過程、看護と法規			講義	
第12回	看護倫理			講義・演習	
第13回	看護倫理			講義・演習	
第14回	看護倫理			講義・演習	
第15回	看護理論家の看護に対する考え方（グループワーク）			演習	
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 2. 看護覚え書き 現代社 3. 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 4. 看護六法 2021年度版 新日本法規					
【成績評価方法】 筆記試験 (80点) グループワーク (20点)					
担当講師	実務経験がある講師			職種	大学教員・専任教員

科目名：看護学概論		(2) 単位・(45) 時間		履修時期：1年次 前期・後期	
【科目目標】 1. 看護の主要概念である「人間」・「健康」・「環境」・「看護」とその関係について学び、看護の本質を理解する。 2. 看護の歴史的な変遷や社会における看護の役割・機能について理解し、自らの看護観を構築していくための手がかりとする。					
回数	講義内容			学習方法	
第16回	看護理論家の看護に対する考え方（グループワーク）			演習	
第17回	看護理論家の看護に対する考え方（グループワーク）			演習	
第18回	看護理論家の看護に対する考え方（グループワーク）			演習	
第19回	看護理論家の看護に対する考え方（グループワーク）			発表	
第20回	看護理論家のまとめ			演習	
第21回	病院見学（患者の生活環境、看護実践の場）			病院見学	
第22回	病院見学（病院で働く関連職種）			病院見学	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学① 看護学概論 医学書院 2. 看護覚え書き 現代社 3. 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 4. 看護六法 2021年度版 新日本法規					
【成績評価方法】 筆記試験 (80点) グループワーク (20点)					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専任教員

科目名 : 安全を守る技術	(1)単位・(30)時間	履修時期 : 1年次	前期・後期
【科目目標】 対象の生命の安全を守る看護者としての責任を理解し、安全を守る方法を学ぶ。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	安全とは何か・手洗い	講義・校内実習	
第2回	ヒューマンエラーとは	講義・演習	
第3回	医療事故の定義	講義	
第4回	看護医療事故予防における看護倫理	講義	
第5回	組織としての事故防止対策:ヒヤリハット体験の分析	講義・演習	
第6回	組織としての事故防止対策:KYT、インシデントレポート	講義・演習	
第7回	実習における学生の安全	講義・演習	
第8回	感染予防	講義	
第9回	感染予防対策の実際	講義	
第10回	創傷管理・包帯法	講義・演習	
第11回	感染予防の実際	校内実習	
第12回	滅菌操作の実際	校内実習	
第13回	ゼミナール①	演習	
第14回	ゼミナール②	演習	
第15回	ゼミナール③	演習	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院 4. 看護技術プラクティス 第4版 学研			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

科目名：生活援助技術 I (環境)		(18)時間 履修時期：1年次 前期	
【科目目標】 生活環境が健康に及ぼす影響とその人らしい健康な生活環境を整える意義を理解し、 環境を整える看護の役割と援助方法を学ぶ。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	健康と環境と看護の関連性	講義	
第2回	入院患者の環境調整	講義	
第3回	入院患者の生活環境とその整備	講義	
第4回	ベッドメイキング I (チェックポイント、クローズドベッドの作成)	校内実習	
第5回	ベッドメイキング I (チェックポイント、クローズドベッドの作成)	校内実習	
第6回	ベッドメイキング II (臥床患者のシーツ交換)	校内実習	
第7回	ベッドメイキング II (臥床患者のシーツ交換)	校内実習	
第8回	ベッドメイキング III (環境整備と1人でのシーツ交換)	校内実習	
第9回	ベッドメイキング III (環境整備と1人でのシーツ交換)	校内実習	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術医 II 学書院 2. 看護技術プラクティス 第4版 学研 3. 看護覚え書き 現代社 4. 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

科目名 : 生活援助技術Ⅱ (衣生活・清潔)		(26)時間		履修時期 : 1年次 前期・後期	
【科目目標】 人間にとって衣生活・清潔を充足する意義を理解し、衣生活・清潔における看護の役割と援助方法を学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	衣生活の意義・寝衣交換の体験			講義・体験	
第2回	寝衣交換の実際			校内実習	
第3回	清潔の意義			講義	
第4回	清潔援助の体験			体験	
第5回	清潔援助と身体への影響			講義	
第6回	清拭の実際			校内実習	
第7回	清拭の実際			校内実習	
第8回	口腔の清潔			講義・校内実習	
第9回	陰部の清潔			講義・校内実習	
第10回	事例を使った清拭の実際			校内実習	
第11回	頭皮の清潔・整容の意義			講義	
第12回	洗髪の実際			校内実習	
第13回	洗髪の実際			校内実習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2. 看護技術プラクティス 第4版 学研					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専任教員

科目名：生活援助技術Ⅲ (食事・排泄)		(16)時間 履修時期：1年次 前期	
【科目目標】 人間にとっての食事・排泄の意義を理解し、自分で食事・排泄行動ができない人に対する看護の役割と援助方法を学ぶ。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	食事の意義とメカニズム 食生活の援助に関する基礎知識	講義	
第2回	食事援助の基本	講義	
第3回	食事・栄養に関する援助の方法 ①経口栄養法 ②嚥下訓練	講義	
第4回	食事援助の実際	校内実習	
第5回	排泄用具についてGW	演習	
第6回	排泄の意義とメカニズム	講義	
第7回	排泄の援助に関する基礎知識	講義	
第8回	排泄援助の実際	校内実習	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 2. 看護技術プラクティス 第4版 学研			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

科目名 : 診療に伴う技術 I (与薬)		(18)時間 履修時期 : 1年次 後期	
【科目目標】 医療安全を認識した上で与薬時の看護師の法的責任を理解し、与薬における看護の役割と援助方法を学ぶ。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	与薬の意義、原則、看護師の役割と法的責任、薬物の体内動態	講義	
第2回	経口与薬法、外用薬与薬法	講義	
第3回	直腸内与薬方法、経口薬準備、薬剤の計算	講義・校内実習	
第4回	注射法の種類と留意点	講義	
第5回	注射法の種類と留意点	講義	
第6回	注射器の取り扱い・アンプル薬品の準備の実際	校内実習	
第7回	バイアル薬品の準備、点滴静脈注射法の固定	校内実習	
第8回	注射法の実際① 皮下注射	校内実習	
第9回	注射法の実際② 筋肉内注射	校内実習	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II 医学書院 2. 看護技術プラクティス 第4版 学研			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

科目名：診療に伴う技術Ⅲ (周手術期)		(18)時間 履修時期：1年次 後期	
【科目目標】 人間が手術侵襲を受けたときの生体反応のメカニズムを理解し、周手術期患者の全身管理・集中治療を受ける患者・家族の支援に必要な看護の役割と援助方法を学ぶ。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	周手術期看護とは	講義	
第2回	術前期看護	講義	
第3回	術中期看護①	講義	
第4回	術中期看護② 麻酔看護	講義	
第5回	術中期看護③ 直接介助看護、間接介助看護	講義	
第6回	術後期看護① 抜管後の看護、術後ベッド	講義	
第7回	術後期看護② 身体侵襲とは	講義	
第8回	術後期看護③ 術後合併症の予防と看護	講義	
第9回	術後期看護④ 集中治療室、集中治療における看護	講義	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院 2. よくわかる周手術期看護 学研 3. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中／術後の生体反応と急性期看護 第3版 医歯薬出版株式会社 4. 看護技術プラクティス 第4版 学研			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

科目名 : 診療に伴う技術Ⅲ (ME機器)		(12)時間		履修時期 : 1年次 後期	
【科目目標】 看護活動で使用されるME機器の原理と構造を理解し、安全に効果的に使用するための看護の役割と援助方法を学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	ME機器の安全使用			講義	
第2回	測定用ME機器 : 心電図モニター・心電図計			講義	
第3回	測定用ME機器 : パルスオキシメーター 治療用ME機器 : ペースメーカー・医療用ガスアウトレット			講義	
第4回	治療用ME機器 : 人工呼吸器・除細動器			講義	
第5回	治療用ME機器 : 輸液ポンプ・シリンジポンプ			講義	
第6回	人工呼吸器・心電図計・輸液ポンプ・シリンジポンプ使用の実際			校内実習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院 2. 看護技術プラクティス 第4版 学研					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専任教員

科目名：看護過程		(1)単位・(15)時間		履修時期：1年次 後期	
【科目目標】 看護を科学的に思考して看護実践につなげるための思考過程を学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	看護過程とは アセスメント 1)情報収集			講義	
第2回	アセスメント 2)情報の分類 3)情報の分析・判断			講義・演習	
第3回	看護上の問題抽出・関連図			講義・演習	
第4回	看護計画立案			講義・演習	
第5回	実施・評価、記録と報告			講義・演習	
第6回	事例展開			演習	
第7回	事例展開			演習	
第8回 (45分)	まとめ			講義・演習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I 医学書院 2. 看護過程に沿った対症看護 第5版 一病態生理と看護のポイントー 学研 3. 疾患別看護過程 第6版 学研					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専任教員

科目名：看護過程演習		(1)単位・(30)時間		履修時期：1年次 後期	
【科目目標】 看護過程の知識・技術を基盤に、対象者を包括的にアセスメントし、看護実践に活用できる能力を養う。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	事例展開 I			演習	
第2回	事例展開 I			演習	
第3回	事例展開 I			演習	
第4回	事例展開 I			演習	
第5回	事例展開 I			演習	
第6回	事例展開 I			演習	
第7回	事例展開 I			演習	
第8回	事例展開 I			演習	
第9回	事例展開 II			演習	
第10回	事例展開 II			演習	
第11回	事例展開 II			演習	
第12回	事例展開 II			演習	
第13回	事例展開 II			演習	
第14回	事例展開 II			演習	
第15回	事例展開 II			演習	
【テキスト・参考書】 1. 看護過程に沿った対症看護 第5版 一病態生理と看護のポイントー 学研 2. 疾患別看護過程 第6版 学研					
【成績評価方法】 事例展開の演習点 事例展開 I (50点) 事例展開 II (50点)					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専任教員

科目名：看護研究		(1)単位・(30)時間		履修時期：2年次 前期・後期	
【科目目標】 看護領域における研究の概要について学び、研究への関心と理解を深め、実践の学問としての看護を科学的に探求する重要性を学ぶ。 学習の中で関心を持った一連の過程を研究の視点でまとめることにより、研究手法の理解を探る。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	看護研究の意義と目的 研究に伴う倫理			講義	
第2回	看護研究のプロセス 研究課題の探索			講義・演習	
第3回	文献検索の意義と方法 文献検索の実際			講義・演習	
第4回	研究の種類 ケース・スタディ			講義	
第5回	データ収集 データ分析 結果の整理と考察			講義	
第6回	研究論文のクリティーク クリティークの実際			講義・演習	
第7回	研究計画書の意義 研究計画書の書き方			講義・演習	
第8回	パイロット・スタディ			演習	
第9回	パイロット・スタディ			演習	
第10回	パイロット・スタディ			演習	
第11回	パイロット・スタディ			演習	
第12回	パイロット・スタディ			演習	
第13回	パイロット・スタディ			演習	
第14回	パイロット・スタディ			演習	
第15回	パイロット・スタディ			演習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院					
【成績評価方法】 筆記試験 (60点) パイロット・スタディ (40点)					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専任教員

成人看護学 13単位 (450時間)

目的 : 社会において生活を営み人生を紡ぐ成人を理解し、自立した存在として生活できるよう健康レベルや状態に応じた看護の方法を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	ねらい
成人看護学概論	1	15	成人看護の概念と成人各期の特徴を理解し、成人看護の機能と役割を学ぶ。
成人看護学方法Ⅰ	1	30	成人保健の意義と成人期における健康問題を理解し、保健活動の必要性和健康問題を解決するための対策を学ぶ。
成人看護学方法Ⅱ	1	15	成人期の急性過程にある対象を理解し、クリティカルケアの特性と援助方法を学ぶ。
成人看護学方法Ⅲ	1	30	成人期の周手術期にある対象を理解し、合併症予防と早期回復の援助方法を学ぶ。
成人看護学方法Ⅳ	1	30	成人期の回復過程にある対象を理解し、リハビリテーション看護の特性と援助方法を学ぶ。
成人看護学方法Ⅴ	1	30	成人期の慢性期にある対象を理解し、セルフケア獲得への援助方法を学ぶ。
成人看護学方法Ⅵ	1	30	成人期の人生最期の過程にある対象を理解し、ターミナルケアの特性と援助方法を学ぶ。
小計	7	180	
成人看護学実習Ⅰ	2	90	生命の危機的状況から徐々に回復していく対象の特徴を理解すると共に、その対象に応じた看護ができる。
成人看護学実習Ⅱ	2	90	生涯規制された生活を送る対象の特徴を理解すると共に、その対象に応じた看護ができる。
成人看護学実習Ⅲ	2	90	近い将来死を免れない対象の特徴を理解すると共に、その対象に応じた看護ができる。
小計	6	270	
総計	13	450	

科目名：成人看護学概論	(1)単位・(15)時間	履修時期：1年次 前期
【科目目標】 1. 成人看護の対象と特性を学ぶ。 2. ライフサイクルからみた成人期の特徴を理解し、成人の役割を学ぶ。 3. 成人の生活を理解し、成人看護が担うべき機能と役割について学ぶ。		
回数	講義内容	学習方法
第1回	成人看護の対象 1)ライフサイクルからみた成人期	講義・演習
第2回	2)成人各期の区分と名称	講義
第3回	成人看護の機能と役割 1)成人各期の区分と分類根拠 2)成人期の発達課題	講義
第4回	成人各期の身体的・精神的・社会的理解 1)青年期の特徴	講義・演習
第5回	2)壮年期の特徴	講義・演習
第6回	3)向老期の特徴	講義・演習
第7回	成人と生活 1)現代の生活状況 2)職業をもつ意味・成人期の再考	講義
第8回 (45分)	まとめ	演習
	終講試験	
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 2. 国民衛生の動向		
【成績評価方法】 筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種 専任教員

科目名：成人看護学方法Ⅰ		(1)単位・(30)時間 履修時期：1年次 後期	
【科目目標】			
1. 成人保健の意義と動向を学ぶ。 2. 成人の健康問題と健康の保持・増進・疾病予防について学ぶ。 3. 成人保健活動の場と特徴を知り、各活動における看護の役割を学ぶ。 4. 成人期である自分自身の発達や生活習慣に関する振り返りができる。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	成人保健の意義・動向 1)成人保健の目的 2)成人人口の動向	講義	
第2回	3)死亡と死因 4)疾病構造と受療の動向	講義	
第3回	生活習慣病の動向 1)がん 2)循環器疾患 3)糖尿病	講義	
第4回	成人の生活と健康問題 1)健康観	講義	
第5回	2)健康上のニーズをもつ生活者と家族	講義	
第6回	3)成人各期における健康問題	講義	
第7回	5)生活習慣に関する健康問題:ジグソー学習①	演習	
第8回	生活習慣に関する健康問題:ジグソー学習②	演習	
第9回	生活習慣に関する健康問題:ジグソー学習③	演習・講義	
第10回	6)ストレスに関する健康問題	講義	
第11回	成人の生活と健康を守り育むシステム 1)労働と健康問題	講義	
第12回	2)労働者の保健活動・健康管理の実際①	企業見学	
第13回	3)労働者の保健活動・健康管理の実際②	演習	
第14回	成人の健康問題を育む支援の目的 1)ヘルスプロモーション 2)環境作り	講義	
第15回	成人保健における感染症対策:結核・性感染症	講義	
	終講試験		
【テキスト・参考書】			
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論 医学書院 3. 国民衛生の動向			
【成績評価方法】			
筆記試験 (90点) 演習点 (10点)			
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

科目名：成人看護学方法Ⅱ		(1)単位・(15)時間		履修時期：2年次 前期	
【科目目標】 1. 急性過程にあり、危機的状況にある対象の心理やニーズ及びその家族の課題を学ぶ。 2. 急性過程にある患者の合併症予防の必要性和モニタリング技術を学ぶ。 3. クリティカル看護の特性を学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	主要概念 1)クリティカルケアの概念、定義、役割 2)モニタリングと臨床診断			講義	
第2回	心理的危機への援助 1)危機プロセスと危機介入 2)危機的状況における心理的アプローチ			講義・演習	
第3回	モニタリング 1)循環障害			講義	
第4回	2)呼吸障害			講義	
第5回	生命の安全を守る援助 1)症状からの苦痛の緩和			講義	
第6回	2)合併症予防 3)安全への配慮			講義	
第7回	4)治療・処置・検査の看護			講義	
第8回 (45分)	まとめ			演習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学3 循環器 医学書院 3. 看護過程に沿った対症看護 第5版 一病態生理と看護のポイントー 学研 4. 疾患別看護過程 第6版 学研 5. 看護技術プラクティス 第4版 学研					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	看護師・専任教員

科目名：成人看護学方法Ⅲ		(1)単位・(30)時間 履修時期：2年次 後期	
【科目目標】			
1. 周術期にある対象の心理やニーズ及びその家族の課題を学ぶ。 2. 苦痛を伴う治療や疼痛の影響を理解し、コントロールやコーピングの方法を学ぶ。 3. 合併症予防と早期回復の援助方法を学ぶ。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	主な症状・検査時の看護 1)嘔気・嘔吐時の看護 2)術前検査と看護	講義	
第2回	苦痛を伴う治療を受ける患者の看護 1)ストレス・コーピング	講義	
第3回	2)コーピング強化のための援助	講義	
第4回	(1)不安の緩和 (2)予期的指導・情報提供の目的	講義	
第5回	(3)指導・情報提供 (4)術前処置	演習	
第6回	(3)指導・情報提供 (4)術前処置の実際	講義	
第7回	疼痛コントロール 1)術後疼痛がもたらす弊害	講義	
第8回	2)援助の実際 (1)疼痛アセスメント (2)薬剤による援助	講義	
第9回	合併症予防と早期回復のための看護 1)合併症を予測した予防的看護	講義・演習	
第10回	1)合併症を予測した予防的看護の実際	講義・演習	
第11回	2)早期回復促進のための援助	講義	
第12回	(1)酸素化の促進 (2)栄養管理	講義	
第13回	(3)体液バランスの管理 (4)感染予防 3)ボディイメージの受容の援助	講義	
第14回	外科的ケア 1)ストーマケア	講義	
第15回	2)胸腔・腹腔ドレーンの管理	講義	
	終講試験		
【テキスト・参考書】			
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学5 消化器 医学書院 3. 高齢者と成人の周手術期看護2 術中／術後の生体反応と急性期看護 第3版 医歯薬出版株式会社 4. よくわかる周術期看護 学研 5. 看護過程に沿った対症看護 第5版 一病態生理と看護のポイントー 学研 6. 疾患別看護過程 第6版 学研 7. 看護技術プラクティス 第4版 学研			
【成績評価方法】			
筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師

科目名：成人看護学方法Ⅳ		(1)単位・(30)時間 履修時期：1年次 後期	
【科目目標】 1. 回復過程にあり、障害を持つ対象の心理やニーズ及びその家族の課題を学ぶ。 2. 回復過程にある患者の再発予防・合併症予防の必要性和観察技術を学ぶ。 3. 身体の機能の一部が喪失した人の生活獲得への援助方法を学ぶ。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	主要概念 1)障害の概念と受容への援助 2)セルフケア・ADL	講義	
第2回	モニタリング 1)意識障害の程度 2)運動障害の種類・程度	講義	
第3回	モニタリング 3)言語障害の種類・程度 4)嚥下障害の種類・程度	講義	
第4回	再発予防 1)血圧のコントロール2)生活指導	講義	
第5回	合併症の予防 1)拘縮・筋力低下予防	講義	
第6回	2)誤嚥による肺炎予防 3)脱臼・転倒予防	演習	
第7回	生活獲得への援助 1)ADL評価 2)活動の援助 3)食事・栄養の援助	講義	
第8回	4)コミュニケーション 5)安全な環境、自助具・補助具の工夫	演習	
第9回	社会復帰への援助 1)地域へのサポート・社会資源の活用 2)退院調整活動	講義	
第10・11回	リハビリテーションの実際 1)理学療法の目的・方法と連携・共働	講義・演習	
第12・13回	2)作業療法の目的・方法と連携・共働	講義・演習	
第14・15回	3)言語療法の目的・方法と連携・共働	講義・演習	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 4. 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 5. 看護過程に沿った対症看護 第5版 一病態生理と看護のポイントー 学研 6. 疾患別看護過程 第6版 学研 7. 看護技術プラクティス 第4版 学研			
【成績評価方法】 筆記試験 (85点) 課題レポート (15点)			
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

科目名：成人看護学方法V		(1)単位・(30)時間 履修時期：2年次 前期・後期	
【科目目標】 1. 慢性過程にある対象の心理やニーズ及びその家族の課題を学ぶ。 2. 疾病の理解と受容、セルフケア確立のために闘病意欲への働きかけの必要性を学ぶ。 3. 疾病コントロールとセルフケア獲得への援助方法を学ぶ。 4. 成人期の自己決定の尊重について考える機会とする。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	慢性の病気をもつ成人の理解 1) 疾病の受容過程 2) 本人と病気の位置関係	講義	
第2回	3) 病みの軌跡 4) 慢性の病気をもつ成人のコミュニケーション	講義	
第3回	慢性の病気をもつ成人を援助するための概念 1) ケアリング	講義・演習	
第4回	2) 自己効力 3) エンパワメント 4) セルフケア理論	講義	
第5回	疾病コントロールとセルフケア獲得への援助 1) 食事療法と看護 2) 運動療法と看護	講義・演習	
第6回	3) 薬物療法と看護 4) インスリン療法と看護	講義	
第7回	5) 指導技術の目的・方法・留意点・指導計画	講義・演習	
第8回	6) 指導技術の実際・評価	講義・演習	
第9回	障害の拡大を予防するための援助 1) フットケア 2) セルフモニタリング	講義	
第10回	3) 3大合併症の予防 4) SMBG測定	講義・演習	
第11回	患者の自己決定を支える意味 1) 透析医療と移植のメリット・デメリット	講義・演習	
第12回	2) 腎移植の自己決定を自己の立場から考える	講義・演習	
第13・14回	3) いのちの勉強会に参加	研修	
第15回	家族・グループ・ヘルスケアシステムとアプローチ	講義	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院 3. 看護過程に沿った対症看護 第5版 一病態生理と看護のポイントー 学研 4. 疾患別看護過程 第6版 学研			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

科目名：成人看護学方法VI		(1)単位・(30)時間 履修時期：2年次 後期	
【科目目標】			
1. 人生の最期の過程にある対象の心理やニーズ及びその家族の課題を学ぶ。 2. 人生の最期の過程にある対象の全人的苦痛とその関連性について学ぶ。 3. 人生の最期の過程にある対象のその人らしさを尊重した援助について学ぶ。 4. 家族の直面する危機や悲嘆のプロセスについて考え、家族へのサポートの重要性について学ぶ。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	終末期と完成期 1)終末期・完成期の意味と概念 2)死に向かって生きるとは 3)エン・ドオブ・ライフ・ケア	講義	
第2回	終末期における倫理的課題 1)医療・援助における倫理的課題:告知・セデーション	講義・演習	
第3回	人生の最期の過程にある人の理解 1)全人的苦痛(total pain)の理解とメカニズム	講義・演習	
第4回	2)身体的苦痛:痛みの閾値に影響する因子 3)精神的苦痛:死の受容プロセス・喪失とグリーフワーク	講義	
第5回	4)スピリチュアルペインの理解と関連性:自己存在の意味・創造価値	講義・演習	
第6回	人生の最期の過程にある人の看護 1)痛みのコントロール 2)身体的苦痛のコントロールとケア	講義	
第7回	3)心理社会的苦痛・スピリチュアルペインの援助	講義・演習	
第8回	4)緩和ケア・ホスピスケア	講義・演習	
第9回	5)化学療法中のケア	講義	
第10回	6)放射線療法中のケア	講義・演習	
第11回	7)人生最期の過程にある人のその人らしさを尊重した援助	講義	
第12回	8)臨死期の看護・エンゼルケア	講義・演習	
第13回	9)告知の考え方と病状説明・悪いニュースの伝え方	講義・演習	
第14回	人生の最期の過程にある人の家族の理解 1)家族の直面する危機と家族のニーズ	講義	
第15回	家族サポートの意義 1)家族のアセスメント2)家族に対する援助3)グリーフケア	講義・演習	
	終講試験		
【テキスト・参考書】			
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学1 成人看護学総論 医学書院 2. 系統看護学講座 別館 緩和ケア 医学書院 3. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 4. 疾患別看護過程 第6版 学研			
【成績評価方法】			
筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

老年看護学 8単位 (285時間)

目的： 人間的成熟、統合に向かって発達する老年期の人々の健康問題を理解し、老化に伴う機能低下や健康問題を持つ個人とその家族に対して、生活史に基づく人生観・価値観を尊重し、自立や生きがいを支援する看護方法を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目的
老年看護学概論	1	30	老年看護の概念と老年期にある対象の特徴を理解し、老化や健康障害に応じた看護を行うための専門的知識・技術・態度を学ぶ。
老年看護学方法Ⅰ	1	15	老人保健・福祉の現状を把握し、健康を保持・増進するための保健・医療・福祉の動向と対策を学ぶ。
老年看護学方法Ⅱ	1	30	老化に伴う機能低下や健康障害を持つ対象とその家族に対し、健康レベルに応じた看護の方法を学ぶ。
老年看護学方法Ⅲ	1	30	高齢者の特徴を踏まえた、看護過程が展開できる能力を養う。
小計	4	105	
老年看護学実習Ⅰ	2	60	地域で生活している健康な老年者の特徴と人生観・健康観・生活観を理解する。
		30	施設に入所している老年者の援助場面を通して、老年者の理解を深める。
老年看護学実習Ⅱ	2	90	老化や健康障害により生活機能の低下している老年者を理解し、対象に応じた援助ができる。
小計	4	180	
総計	8	285	

科目名 : 老年看護学概論		(1) 単位・(30) 時間		履修時期 : 1年次 後期	
【科目目標】					
1. 老年期の発達課題が理解できる 2. 高齢者の老化を身体的・精神的・社会的側面から理解できる 3. 高齢者のその人らしさを維持することの必要性が理解できる 4. 老年看護の活動の場と役割が理解できる					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	老年看護ガイダンス			講義	
第2回	老年看護の意義① 高齢社会の動向			講義	
第3回	老年看護の意義② 対象理解			講義	
第4回	老化とは			講義 DVD	
第5回	高齢者の身体的変化			講義 DVD	
第6回	老化体験準備			演習	
第7回	老化体験			演習	
第8回					
第9回	老化体験発表の準備			演習	
第10回	老化体験発表			演習	
第11回	高齢者の権利とアドボカシー			講義	
第12回	高齢者の生きがい			講義 DVD	
第13回	高齢者の性			講義 DVD	
第14回	老いと死			講義 DVD	
第15回	老年看護の場と役割と機能			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】					
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院					
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院					
3. 国民衛生の動向					
【成績評価方法】					
筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専任教員

科目名 : 老年看護学方法 I		(1) 単位・(15) 時間	履修時期 : 2年次 前期	
【科目目標】 1. 我が国の高齢化の現状と課題が理解できる 2. 高齢者を支える保健医療福祉システムが理解できる				
回数	講義内容		学習方法	
第1回	高齢社会の現状理解①		講義	
第2回	高齢社会の現状理解②		講義	
第3回	高齢者医療の動向 老人保健法の制定と変遷		講義	
第4回	老人福祉法の制定と変遷 ゴールドプラン 新ゴールドプラン ゴールドプラン21 健康日本21		講義	
第5回	介護保険制度の創設経緯と概要		講義	
第6回	高齢者虐待 成年後見制度		講義	
第7回	高齢者の健康と保健活動(実際の活動を通して)		講義	
第8回 (45分)	まとめ		演習	
	終講試験			
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 3. 国民衛生の動向				
【成績評価方法】 筆記試験				
担当講師	実務経験がある講師		職種	専任教員

科目名：老年看護学方法Ⅱ		(1)単位・(30)時間	履修時期：2年次 前期	
【科目目標】 1. 高齢者の生活上の問題と看護が理解できる 2. 高齢者の特徴的な健康問題と看護が理解できる 3. 高齢者を介護する家族の問題と看護が理解できる				
回数	講義内容	学習方法		
第1回	高齢者のヘルスアセスメントの視点	講義		
第2回	高齢者の食事のアセスメントと看護ケア	講義		
第3回	高齢者の排泄のアセスメントと看護ケア	講義・演習		
第4回	高齢者の活動・休息・清潔のアセスメントと看護ケア	講義		
第5回	高齢者のうつ・せん妄のアセスメントと看護ケア	講義		
第6回	高齢者の浮腫・脱水・疼痛・掻痒感のアセスメントと看護ケア	講義		
第7回	家族看護・エンパワーメント・終末期看護のアセスメントと看護ケア	講義		
第8回	高齢者の口腔ケアのアセスメントと看護ケア	講義・演習		
第9回	外科的治療時のアセスメントと看護ケア	講義		
第10回	検査・薬物治療時のアセスメントと看護ケア	講義		
第11回	日常生活動作と環境、転倒転落予防のアセスメントと看護ケア	講義		
第12回	コミュニケーションと看護ケア	講義		
第13回	認知症のあるひとの看護①	講義		
第14回	認知症のあるひとの看護②	講義		
第15回	認知症のあるひとの看護③	講義		
	終講試験			
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学15 歯・口腔 医学書院 4. カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社				
【成績評価方法】 筆記試験				
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員	

科目名：老年看護学方法Ⅲ		(1)単位・(30)時間	履修時期：2年次 前期・後期
【科目目標】 高齢者の事例展開が理解できる			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	看護過程展開の考え方／事例紹介	講義	
第2回	事例展開 個人ワーク ①	演習 (個人ワーク)	
第3回	事例展開 個人ワーク ②	演習 (個人ワーク)	
第4回	事例展開 個人ワーク ③	演習 (個人ワーク)	
第5回	事例展開 個人ワーク ④	演習 (個人ワーク)	
第6回	事例展開 グループワーク ①	演習 (グループワーク)	
第7回	事例展開 グループワーク ②	演習 (グループワーク)	
第8回	事例展開 グループワーク ③	演習 (グループワーク)	
第9回	事例展開 グループワーク ④	演習 (グループワーク)	
第10回	事例展開 グループワーク ⑤	演習(グループワーク)	
第11回	事例展開 グループワーク ⑥	演習(グループワーク)	
第12回	ケアの実際 援助技術練習①	演習(グループワーク)	
第13回	ケアの実際 援助技術練習②	演習(グループワーク)	
第14回	技術発表 演習のまとめ	演習(グループワーク)	
第15回			
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 3. カラー写真で学ぶ 高齢者の看護技術 医歯薬出版株式会社 4. 疾患別看護過程 第6版 学研			
【成績評価方法】 1. 看護過程の展開：事例展開、技術演習を合わせて総合的に評価する ○演習 ①アセスメント(個人:30点 グループ:10点 計40点) ○技術発表 (30点) ②関連図 (個人:10点 グループ:5点 計15点) ・老化の特徴 ・機能維持と自立の視点 ・機能維持と自立に向けたケア ③看護計画(グループワーク) (15点) 事例患者に適応できる看護ケア 2. 演習の取り組み姿勢、提出物の不備・遅れなどは減点の対象とする			
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

小児看護学 6単位 (195時間)

目的 : 環境との相互作用の中で成長発達を続ける子どもとその家族を理解し、子どもを取り巻く健康問題を解決するとともに、未来を担う子どもの生きる力を育む看護を実践するための看護の方法を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目的
小児看護学概論	1	15	小児看護の概念と小児各期の特徴を理解し、小児看護の機能と役割を学ぶ。
小児看護学方法Ⅰ	1	30	小児保健の意義や動向を理解し、小児各期の成長発達の特徴や健康問題を考え、対策を学ぶ。
小児看護学方法Ⅱ	1	30	健康障害をもつ子どもと家族に対し、健康レベルや状態に応じた看護の方法を学ぶ。
小児看護学方法Ⅲ	1	30	
小計	4	105	
小児看護学実習	2	90	小児各期における対象を理解し、成長発達に応じた養護と看護ができる基礎的能力を養う。
小計	2	90	
総計	6	195	

科目名 : 小児看護学概論		(1)単位・(15)時間		履修時期 : 2年次 前期	
【科目目標】 1. 小児看護の対象と特徴、小児看護の変遷について学ぶ。 2. 現在の子どもと家族の保健統計の特徴について学ぶ。 3. 子どもにとっての環境の影響と因子について学ぶ。 4. 子どもの人権と倫理的課題について学ぶ。					
回数	講義内容	学習方法			
第1回	小児看護とは	講義			
第2回	小児看護の変遷、成長発達総論	講義			
第3回	小児保健統計	講義			
第4回	子どもと環境、子どもと家族	個人ワーク			
第5回	子どもと環境、子どもと家族	グループワーク			
第6回	子どもと環境、子どもと家族	発表			
第7回	子どもの人権と倫理的課題	講義			
第8回 (45分)	まとめ	演習			
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2. 国民衛生の動向					
【成績評価方法】 筆記試験 (85点) 演習点 (15点) ・子どもの育つ環境について					
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員		

科目名：小児看護学方法Ⅰ		(1)単位・(30)時間		履修時期：2年次 前期・後期	
【科目目標】					
1. 小児各期の成長発達の特徴を理解し、看護について学ぶ。 2. 小児各期の栄養、遊び、安全の特徴について学ぶ。 3. 基本的生活習慣の獲得を理解し、日常生活の援助方法について学ぶ。 4. 各発達段階にある子どもの生活の特徴と問題について学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	小児各期の成長と発達総論 —子どもの成長・発達の基礎知識—			講義	
第2回	子どもの成長発達			グループワーク	
第3回	子どもの成長発達			グループワーク	
第4回	子どもの成長発達			発表	
第5回	子どもの成長発達			発表	
第6回	小児各期の成長と発達各論 —形態的発達—			講義	
第7回	小児各期の成長と発達各論 —運動機能的発達、心理・社会的発達—			講義	
第8回	小児各期の成長と発達各論 —機能的発達—			講義	
第9回	子どもの栄養			講義	
第10回	基本的生活習慣の獲得			講義	
第11回	子どもの生活と養護			演習	
第12回	子どもと遊び			講義	
第13回	子どもの感染予防と予防接種			講義	
第14回	子どもと安全			講義	
第15回	学童・思春期の子どもの生活と健康問題			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】					
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2. 写真でわかる小児看護技術 新訂版 インターメディカ 3. 国民衛生の動向					
【成績評価方法】					
筆記試験 (85点) 演習点 (15点) ・子どもの成長発達について					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専任教員

科目名：小児看護学方法Ⅱ		(1)単位・(30)時間	履修時期：2年次 前期
【科目目標】 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響を理解し、看護について学ぶ。 2. 外来の特徴と役割を理解し、看護について学ぶ。 3. さまざまな状況にある子どもと家族の特徴を理解し、看護について学ぶ。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	病児と家族の理解	講義	
第2回	病児と家族の理解	講義	
第3回	地域と施設を結ぶ看護	講義	
第4回	安静を必要とする子どもの看護 —活動制限のある子どもの看護—	講義	
第5回	安静を必要とする子どもの看護 —抑制、固定を必要とする子どもの看護—	講義	
第6回	安静を必要とする子どもの看護 —抑制、固定を必要とする子どもの看護—	講義、演習	
第7回	薬物療法を必要とする子どもの看護	講義	
第8回	薬物療法を必要とする子どもの看護	講義	
第9回	隔離を必要とする子どもの看護	講義	
第10回	検査・処置を必要とする子どもの看護	講義	
第11回	検査・処置を必要とする子どもの看護	講義	
第12回	食事制限を必要とする子どもと家族の看護	講義	
第13回	子どもの諸問題	グループワーク	
第14回	子どもの諸問題	グループワーク	
第15回	子どもの諸問題	発表	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院 3. 写真でわかる小児看護技術 新訂版 インターメディカ 4. 疾患別看護過程 第6版 学研 5. 国民衛生の動向			
【成績評価方法】 筆記試験 (90点) 演習点 (10点) ・幼児期の生活の特徴と課題 ・学童期の生活の特徴と課題 ・思春期の生活の特徴と課題			
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

科目名：小児看護学方法Ⅲ		(1)単位・(30)時間	履修時期：2年次 後期	
【科目目標】 1. さまざまな病期にある子どもと家族の特徴を理解し、看護について学ぶ。 2. 先天性疾患のある子どもと家族の特徴を理解し、看護について学ぶ 3. 喘息の子どもの事例を通し、小児看護過程の特徴を理解し、看護過程の展開方法を学ぶ。				
回数	講義内容		学習方法	
第1回	周手術期にある子どもと家族の看護		講義	
第2回	周手術期にある子どもと家族の看護		講義	
第3回	急性期にある子どもと家族の看護		講義	
第4回	急性期にある子どもと家族の看護		講義	
第5回	終末期にある子どもと家族の看護		講義	
第6回	終末期にある子どもと家族の看護		講義	
第7回	終末期にある子どもと家族の看護		講義	
第8回	先天性疾患のある子どもと家族の看護		講義	
第9回	先天性疾患のある子どもと家族の看護		講義	
第10回	小児看護過程演習 「喘息の事例に基づいた看護過程の展開」		演習	
第11回	小児看護過程演習 「喘息の事例に基づいた看護過程の展開」		演習	
第12回	小児看護過程演習 「喘息の事例に基づいた看護過程の展開」		演習	
第13回	小児看護過程演習 「喘息の事例に基づいた看護過程の展開」		演習	
第14回	小児看護過程演習 「喘息の事例に基づいた看護過程の展開」		演習	
第15回	小児看護過程演習 「喘息の事例に基づいた看護過程の展開」		演習	
	終講試験			
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院 3. 写真でわかる小児看護技術 新訂版 インターメディカ 4. 疾患別看護過程 第6版 学研				
【成績評価方法】 筆記試験 (70点) 看護過程の演習点 (30点)				
担当講師	実務経験がある講師		職種	看護師・専任教員

母性看護学 6単位（195時間）

目的：人間の性と生殖を理解し、母性の一生の機能が健全に発揮でき、健康で充実した生活を支援するための援助の方法を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目的
母性看護学概論	1	15	母性の概念と特徴を理解し、母性看護の機能と役割を学ぶ。
母性看護学方法Ⅰ	1	30	母子保健の意義を理解し、ライフ・サイクルに応じたヘルス・ケアと保健対策について学ぶ。
母性看護学方法Ⅱ	1	30	周産期(妊娠・分娩・産褥・新生児)の経過を理解し、母子関係を確立するための看護の方法を学ぶ。
母性看護学方法Ⅲ	1	30	
小計	4	105	
母性看護学実習	2	90	妊婦・産婦・褥婦・新生児の特徴を理解し、産褥期の順調な経過および親子関係形成に向けた看護が出来る基礎的能力を養う。
小計	2	90	
総計	6	195	

科目名 : 母性看護学概論		(1)単位・(15)時間		履修時期 : 2年次 前期	
【科目目標】 1. 母性看護の概念と特徴を理解する。 2. セクシュアリティについて理解し、自己の身体に関心が持てる。 3. 生命の誕生を通して母性看護の本質を理解する。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	母性の概念			講義	
第2回	セクシュアリティ			講義・演習	
第3回	リプロダクティブヘルス・ライツ			講義	
第4回	母性の発達・成熟・継承			講義・DVD	
第5回	生命の誕生			DVD・演習	
第6回	母性看護のあり方・本質			講義	
第7回	母性看護に使われる看護技術			講義	
第8回 (45分)	母性看護の役割			演習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専任教員

科目名 : 母性看護学方法 I		(1) 単位・(30) 時間		履修時期 : 2 年次 前期・後期	
【科目目標】					
1. 母子保健の意義と現状を理解し、必要な支援を考えることができる。 2. リプロダクティブヘルスケアの課題を理解し、健全な次世代の育成について考えることができる。 3. 母性各期の特徴と看護の対象を理解する。 4. 母性看護における倫理について理解する。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	母子保健の意義			講義	
第2回	母子保健の変遷と現状			講義	
第3回	母性看護の歴史			演習	
第4回	母子に関する保健統計・法律			講義	
第5回	母性看護に関係する組織、場、職種			演習	
第6回	周産期医療システム・母子保健対策と活用			講義・演習	
第7回	リプロダクティブヘルスケア 1)人工妊娠中絶と看護			講義	
第8回	2)家族計画 3)性感染症とその予防			演習	
第9回	4)若年妊娠とその看護			演習	
第10回	母性各期の特徴と健康問題・女性を中心とした看護 1)思春期女性の特徴と健康問題			演習	
第11回	2)成熟期女性の特徴と健康問題			演習	
第12回	3)更年期女性の特徴と健康問題			演習	
第13回	母性看護と倫理 ディベート			講義・演習	
第14回	1)生命倫理と看護倫理 2)生殖医療			演習	
第15回	3)出生前診断 4)人工妊娠中絶			演習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】					
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学1 母性看護学概論 医学書院 2. 国民衛生の動向					
【成績評価方法】					
筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専任教員

科目名：母性看護学方法Ⅱ		(1)単位・(30)時間		履修時期：2年次 前期・後期	
【科目目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠の生理的变化が理解でき、母子関係の確立のための方法が考えられる。 2. 妊娠期における正常からの逸脱を予防する看護を理解する。 3. 胎児の発育過程を理解し、環境について考えられる。 4. 分娩経過がわかり、分娩期の看護について理解する。 					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	妊娠期における看護 1)妊娠の生理			講義	
第2回	2)胎児の発育とその生理、母体の生理的变化			講義	
第3回	3)胎児の発育、妊婦の心理			講義	
第4回	4)妊婦と家族及び社会 妊娠とその診断、検査			講義	
第5回	5)胎児の発育と健康状態の診断			講義	
第6回	6)妊婦・胎児の健康状態のアセスメント			講義	
第7回	7)妊婦と家族の看護			講義	
第8回	8)ハイリスク妊婦の看護：妊娠糖尿病・妊娠高血圧症候群 胎盤異常			講義	
第9回	分娩期における看護 1)分娩の要素			講義	
第10回	2)分娩の経過			講義	
第11回	3)産婦・胎児のアセスメント			講義	
第12回	4)産婦と家族の看護			講義	
第13回	5)分娩期の看護			講義	
第14回	6)分娩の異常と看護1：産道の異常・娩出力の異常			講義	
第15回	分娩の異常と看護2：胎児及び付属物の異常・異常出血			講義	
	終講試験				
【テキスト・参考書】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院 2. 写真でわかる母性看護技術 新訂版 インターメディカ 3. 疾患別看護過程 第6版 学研 					
【成績評価方法】					
筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	助産師

科目名：母性看護学方法Ⅲ		(1) 単位・(30) 時間		履修時期：2年次 後期	
【科目目標】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥経過を理解し、セルフケアの支援を理解する。 2. 家族形成への支援について理解する。 3. ハイリスク褥婦の特徴を理解し、必要な看護がわかる。 4. 新生児の生理を理解し、子宮外生活適応への看護を理解する。 5. ウエルネスに基づく看護過程の展開がわかる。 					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	褥婦の看護 1)産褥経過			講義	
第2回	2)褥婦と家族の看護・施設退院にむけての看護			講義	
第3回	3)帝王切開後の看護			講義	
第4回	4)ハイリスク褥婦の看護:分娩後の合併症に対する看護			講義	
第5回	5)死産・障害を持つ新生児を出産した親への看護			講義	
第6回	新生児の看護 1)新生児の生理と機能			講義	
第7回	2)新生児の健康状態のアセスメント			講義	
第8回	3)ハイリスク新生児の評価			講義	
第9回	4)新生児の異常と看護:早産・低出生体重児・障害を持つ児			講義	
第10回	5)新生児出生直後の看護			講義	
第11回	6)新生児の出生後から退院までの看護			校内実習	
第12回	事例展開①「初産婦の妊娠・分娩・産褥経過と新生児」			演習	
第13回	事例展開②「初産婦の妊娠・分娩・産褥経過と新生児」			演習	
第14回	事例展開③「初産婦の妊娠・分娩・産褥経過と新生児」			演習	
第15回	事例展開④「初産婦の妊娠・分娩・産褥経過と新生児」			演習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学2 母性看護学各論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院 3. 写真でわかる母性看護技術 新訂版 インターメディカ 4. 疾患別看護過程 第6版 学研 					
【成績評価方法】					
筆記試験 (80点) 看護過程展開の演習点 (20点) <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠・分娩経過の観察 ・褥婦の進行性変化 ・褥婦の退行性変化 ・新生児の生理と特徴 					
担当講師	実務経験がある講師			職種	助産師・専任教員

精神看護学 7単位 (195時間)

目的：人間のこころの健康やこころの発達を理解し、こころの構造や働きから、精神の健康を保持・増進するための援助と、危機状況にある人や精神に障害のある人および家族に必要な看護を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目的
精神看護学概論	1	30	精神看護の目的と対象の特性を理解し、健全な精神の保持・増進を図るための保健・医療・福祉の動向を学ぶ。
精神看護学方法Ⅰ	1	15	精神保健看護の概念と対象の特徴を理解し、精神障害者支援の基盤となる理論および精神看護における治療的コミュニケーション技術を学ぶ。
精神看護学方法Ⅱ	2	45	こころに障害を持つ対象とその家族に対し、健康レベルや状態に応じた看護の方法を学ぶ。
精神看護学方法Ⅲ	1	15	
小計	5	105	
精神看護学実習	2	90	あらゆる精神現象にある対象との関わりを通して、精神に障害がある対象を理解し、精神状態に応じた看護実践に必要な知識・技術・態度を養う。
小計	2	90	
総計	7	195	

科目名：精神看護学概論		(1)単位・(30)時間	履修時期：1年次 後期	
【科目目標】				
1. 精神看護の目的と対象の特性について学ぶ。 2. こころの健康・発達と、各ライフサイクルにおける精神の健康問題を理解し、健全な精神の保持・増進を図るための保健・医療・福祉の動向をまなぶ。 3. 精神医療と看護の歴史・変遷について学ぶ。				
回数	講義内容		学習方法	
第1回	精神看護学で学ぶこと	[基礎 第1章]	講義	
第2回	DVD視聴「ツレがうつになりまして」		DVD視聴	
第3回	心の健康・ストレス・ストレスコーピング	[第2章]	講義・演習	
第4回	人間の心の諸活動	[第3章A]	講義・演習	
第5回	人間の心のしくみと人格の発達(自我の防衛機制)	[第3章B③]	講義・演習	
第6回	人間の心のしくみと人格の発達	[第3章B④～⑦]	講義・演習	
第7回	関係のなかの人間①	[第4章]	講義・演習	
第8回	関係のなかの人間②	[第4章]	講義・演習	
第9回	ライフサイクルと心の健康①	[第3章B②]	講義・演習	
第10回	ライフサイクルと心の健康②		講義・演習	
第11回	精神看護に必要な理論		講義・演習	
第12回	精神障害と治療の歴史	[第7章A]	講義	
第13回	精神障害と治療の場	[第13章]	講義	
第14回	リエゾン精神看護	[第14章]	講義	
第15回	精神看護学概論まとめ		講義・演習	
	終講試験			
【テキスト・参考書】				
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院				
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院				
【成績評価方法】				
筆記試験				
担当講師	実務経験がある講師		職種	専任教員

科目名 : 精神看護学方法 I		(1) 単位・(15) 時間		履修時期 : 2年次 前期	
【科目目標】 精神保健看護の概念と対象の特徴を理解し、精神障害者支援の基盤となる理論および精神看護における治療的コミュニケーション技術を学ぶ。 1. 精神に障害をもつ患者とその家族に必要な看護について学ぶ。 2. 精神医療における各種治療法とその看護について学ぶ。 3. 地域精神保健活動を理解し、精神障害者支援の基盤となるアプローチ方法を学ぶ。					
回数	講義内容	学習方法			
第1回	社会の動向と精神保健看護	講義・演習			
第2回	共感・患者看護師関係	講義・演習			
第3回	精神看護に必要な理論	講義・演習			
第4回	プロセスレコードとは	講義・演習			
第5回	プロセスレコードの活用	講義・演習			
第6回	精神看護に用いられるコミュニケーション技術①	講義・演習			
第7回	精神看護に用いられるコミュニケーション技術②	講義・演習			
第8回 (45分)	精神看護に用いられるコミュニケーション技術③	講義・演習			
	終講試験				
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院 3. リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術 医学書院					
【成績評価方法】 筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員		

科目名：精神看護学方法Ⅱ		(2)単位・(45)時間	履修時期：2年次 後期	
【科目目標】				
1. 精神に障害をもつ患者とその家族に必要な看護について学ぶ。 2. 精神医療における各種治療法とその看護について学ぶ。 3. 地域精神保健活動を理解し、精神障害者支援の基盤となるアプローチ方法を学ぶ。				
	講義内容			学習方法
第1回	精神障害と精神症状 2. 精神科病棟での看護の実際			講義
第2回	治療的環境の実際			病院見学
第3回				
第4回	統合失調症の理解と看護 ①			講義
第5回	統合失調症の理解と看護 ②			講義
第6回	気分障害の理解と看護			講義
第7回	人格障害の理解と看護 7. 緊急状態への対応			講義
第8回	神経症の理解と看護			講義
第9回	認知行動療法・アルコール依存症の理解と看護			講義
第10回	薬物療法と看護			講義
第11回	精神療法と社会療法・認知行動療法・医療観察法制度			講義
第12回	家族療法・家族支援・看護者の役割・精神科リハビリテーション			講義
第13回	精神障害者の理解 「17歳のカルテ」			DVD鑑賞
第14回(45分)				
第15回	SST・集団について			講義
【テキスト・参考書】				
1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院				
2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院				
3. 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院				
【成績評価方法】				
筆記試験 (60点)				
担当講師	実務経験がある講師			職種 看護師

科目名：精神看護学方法Ⅲ		(1)単位・(15)時間		履修時期：2年次 後期	
【科目目標】 統合失調症の1事例演習を通して、精神に障害をもつ患者に対する看護の展開方法を学ぶ。 1. 事例患者のIADL・精神面・社会的側面をアセスメントすることができる。 2. 生活能力が低下している患者の看護上の問題を抽出することができる。 3. 再構成の意味と活用方法が分かる。					
	講義内容			学習方法	
第1回	精神看護の看護過程展開の要点 紙上事例			講義	
第2回	情報収集・アセスメント			講義	
第3回	情報収集・アセスメント			講義・演習	
第4回	情報収集・アセスメント			個人ワーク	
第5回	看護上の問題点・健康的側面の抽出			個人ワーク	
第6回	プロセスレコードと再構成			講義・個人ワーク	
第7回	再構成の実際			講義・個人ワーク	
第8回 (45分)	看護過程のまとめ・提出物確認			講義	
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学1 精神看護の基礎 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学2 精神看護の展開 医学書院 3. 系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 医学書院 4. 疾患別看護過程 第6版 学研 5. リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル実践活用術 医学書院					
【成績評価方法】 看護過程 アセスメント (50点) 自己学習レポート (40点) 演習への参加度 (10点) * 第8回 講義終了時に提出					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専任教員

在宅看護論 6単位 (195時間)

目的 : 地域で生活しながら療養する人々、または、障害を持ちながら生活する人々とその家族の特徴を理解し、対象者の主体性を保ち、その人らしい生活が営まれるように支援する方法を学ぶ。

授業科目名	単位数	時間数	目的
在宅看護概論	1	15	在宅看護の概念と在宅で生活している対象の特徴を理解し、在宅看護の機能と役割を学ぶ。
在宅看護方法Ⅰ	1	30	在宅で療養する対象に対し、援助関係の基本、在宅援助の知識と技術を学ぶ。
在宅看護方法Ⅱ	1	30	在宅で療養する対象に対し、健康レベルや障害・状態に応じた援助に必要な知識と技術を学ぶ。
在宅看護方法Ⅲ	1	30	在宅療養者のアセスメントの特徴を学び、看護に活用できる知識と技術を学ぶ。
小計	4	105	
在宅看護論実習	2	90	地域で生活しながら療養する人とその家族を理解し、対象に応じた看護を実践する基礎的能力を養う。
小計	2	90	
総計	6	195	

科目名：在宅看護概論		(1)単位・(15)時間		履修時期：2年次 前期	
【科目目標】					
1. 在宅看護が必要となった社会背景と在宅看護の変遷について学ぶ 2. 在宅看護を必要とする対象と場を地域の中での生活者として学ぶ 3. 在宅ケアシステムや諸制度に基づく、訪問看護活動の形態、対象の違いを学ぶ 4. 在宅看護のマネジメントの実際について学ぶ 5. 退院支援と訪問看護の活動の特性を学ぶ					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	在宅看護の概念			講義	
第2回	在宅看護の意義			講義	
第3回	在宅看護の特性			講義	
第4回	在宅看護のしくみ			講義	
第5回	在宅看護の機能と役割			講義	
第6回	訪問看護管理			講義	
第7回	療養の場の移行に伴う看護 退院支援・連携・協働			講義	
第8回 (45分)	まとめ			演習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】					
1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 2. 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第3版 メヂカルフレンド社 3. 国民衛生の動向					
【成績評価方法】					
筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	看護師・専任教員

科目名 : 在宅看護方法 I	(1) 単位・(30) 時間	履修時期 : 2年次 後期
【科目目標】 1. 在宅看護における援助関係の基本、訪問マナーを学ぶ 2. 在宅看護の基本技術、援助技術、在宅医療技術の方法を学ぶ 3. 福祉用具、住宅改修の基礎知識を学ぶ 4. 社会資源の活用方法と看護師の役割を学ぶ		
	講義内容	学習方法
第1回	在宅看護における援助関係の基本	講義
第2回	訪問マナー 面接技術	演習
第3回	福祉用具の選定 使用の実際	講義・演習 (研修)
第4回	福祉用具の選定 使用の実際	講義・演習 (研修)
第5回	基本技術・援助技術の工夫	講義
第6回	在宅での生活援助技術の工夫	演習
第7回	在宅での生活援助技術の工夫	演習
第8回	在宅での生活援助技術の工夫	演習
第9回	在宅医療技術 1)在宅酸素療法(HOT)	講義
第10回	在宅医療技術 2)在宅人工呼吸療法(HMV・NIPPV)	講義
第11回	在宅医療技術 3)在宅経管栄養法(HEN・PEG)	講義
第12回	在宅医療技術 4)在宅中心静脈栄養(HPN)	講義
第13回	在宅医療技術	校内実習
第14回	在宅医療技術 5)褥瘡①	講義
第15回	在宅医療技術 6)褥瘡②	講義
	終講試験	
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 2. 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第3版 メヂカルフレンド社 3. 国民衛生の動向		
【成績評価方法】 筆記試験		
担当講師	実務経験がある講師	職種 専任教員

科目名：在宅看護方法Ⅱ		(1)単位・(30)時間		履修時期：2年次 後期	
【科目目標】					
1. 状態(状況)別療養者と家族に必要な看護を学ぶ 2. 在宅看護におけるセーフティマネジメントの基礎知識を学ぶ 3. ケアマネジメントにおける多職種との連携・調整方法を学ぶ 4. エコマップを作成することにより、多職種との関連性や経済性を学ぶ					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	要介護高齢者を中心としたケア			講義	
第2回	セーフティマネジメント(安全管理)			講義	
第3回	悪性腫瘍患者の在宅ケア 1)在宅における終末期患者の特徴			講義	
第4回	2)在宅における疼痛管理			講義	
第5回	在宅で難病のある人(児)へのケア 1)症状・治療・検査			講義	
第6回	進行性キンジストロフィー 筋萎縮性側索硬化症			講義	
第7回	パーキンソン病 脊髄小脳変性症			講義	
第8回	在宅で難病のある人(児)へのケア 2)看護			講義	
第9回	ケアマネジメント 1)ケアマネジメントとは			講義	
第10回	ケアマネジメント 2)ケアマネジャーの役割			講義	
第11回	ケアマネジメント 3)ケアマネジメントの過程			講義	
第12回	ケアマネジメント 4)ケアマネジメントの実際 (事例展開)			講義	
第13回	社会資源活用技術			講義	
第14回	多職種との連携 エコマップの作成①			演習	
第15回	多職種との連携 エコマップの作成②			演習	
	終講試験				
【テキスト・参考書】					
1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院 3. 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第3版 メヂカルフレンド社					
【成績評価方法】					
筆記試験					
担当講師	実務経験がある講師			職種	看護師・専任教員

科目名：在宅看護方法Ⅲ	(1) 単位・(30) 時間	履修時期：3年次 前期
【科目目標】 1. 事例演習、訪問看護体験を通して、在宅療養者と家族に対する看護の展開方法を学ぶ 1) 在宅療養者と家族の健康上・療養上の問題を明らかにできる 2) 問題を解決する為の、援助計画が立案できる 3) 援助計画に基づいて、訪問看護が実践できる 4) 自己評価・他者評価を通して客観的に自己の看護を振り返ることができる		
回数	講義内容	学習方法
第1回	在宅看護での看護過程の特徴 事例紹介	講義
第2回	事例のアセスメント(個人ワーク)	演習
第3回	事例のアセスメント(個人ワーク)	演習
第4回	看護計画(個人ワーク)	演習
第5回	看護計画(個人ワーク)	演習
第6回	エコマップ(個人ワーク)	演習
第7回	事例展開のまとめ	演習
第8回	計画立案(グループワーク)	演習
第9回	計画立案(グループワーク)	演習
第10回	計画立案(グループワーク)	演習
第11回	計画立案(グループワーク)	演習
第12回	計画立案(グループワーク)	演習
第13回	グループワーク発表 評価	演習
第14回	グループワーク発表 評価	演習
第15回	グループワーク発表 評価	演習
	終講試験	
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院 2. 看護実践のための根拠がわかる 在宅看護技術 第3版 メヂカルフレンド社 3. 疾患別看護過程 第6版 学研		
【成績評価方法】 看護過程演習の内容 ・療養者・家族のディマンド 提供されているサービスの意味付け 療養者の家族の介護力 ・社会資源 各種保険使用のプロセス 単位計算 ・訪問マナーの実践 在宅にある資源の活用 感染予防の実践 アセスメント内容 (40点) 提出状況 (30点) グループワーク発表 (30点)		
担当講師	実務経験がある講師	職種 専任教員

科目名 : 医療安全	(1) 単位・(30) 時間	履修時期 : 2年次 後期
【科目目標】 対象の安全を守る看護者として、医療事故の防止と看護の責任を果たすために必要な医療安全に対する思考力を養う。		
回数	講義内容	学習方法
第1回	医療事故予防のための看護システム	講義
第2回	医療事故予防の分析方法	講義・演習
第3回	医療事故の実際と予防の分析	演習
第4回	医療事故の実際と予防の分析	演習・発表
第5回	臨床現場での医療事故の実際	講義
第6回	臨床現場での医療事故の実際	講義
第7回	臨床現場での医療事故の実際	講義
第8回	ゼミナール I ①	演習
第9回	ゼミナール I ②	演習
第10回	ゼミナール I ③	演習
第11回	ゼミナール I ④	演習
第12回	ゼミナール II ①	演習
第13回	ゼミナール II ②	演習
第14回	ゼミナール II ③	演習
第15回	ゼミナール II ④	演習
	終講試験	
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践2 医療安全 医学書院 2. 看護技術プラクティス 第4版 学研 3. 医療安全ワークブック 第4版 医学書院		
【成績評価方法】 筆記試験 (90点) 課題レポート ゼミナール I (10点) ゼミナール II		
担当講師	実務経験がある講師	職種 専任教員

科目名：災害看護	(1)単位・(30)時間	履修時期：3年次	前期・後期
【科目目標】 災害が生命や生活に及ぼす影響と看護の役割を理解し、災害時における看護実践のための基礎的能力を養う。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	災害看護概論:歴史に見る災害時の対応	講義	
第2回	災害の種類と疾病の特徴 災害看護とは 1)災害サイクル	講義	
第3回	災害看護とは 2)災害に備えて	講義・演習	
第4回	災害情報	講義	
第5回	災害医療の考え方	講義	
第6回	トリアージ	講義	
第7回	トリアージ 1)演習 I スタート法を用いて10事例検討	講義・演習	
第8回	トリアージ 1)演習 I 10事例解答 2)演習 II ソート法を用いて10事例検討	講義・演習	
第9回	トリアージ 1)演習 II 10事例解答 2)トリアージ訓練	講義	
第10回	戦傷外科	講義	
第11回	被災者と避難所のケア	講義	
第12回	慢性期疾患患者と災害看護 女性と災害看護	講義	
第13回	小児と災害 グリーフケア	講義	
第14回	災害とストレス	講義	
第15回	被災者、救援者の精神保健	講義	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践3 災害看護・国際看護 医学書院			
【成績評価方法】 筆記試験 (80点) 演習事例課題 (20点) ・2回(グループワークの参加度も含む)			
担当講師	実務経験がある講師	職種	専任教員

科目名 : マネジメント論	(1) 単位・(15) 時間	履修時期 : 3年次	前期・後期
【科目目標】 マネジメントの基本的な考えと理論を学び、組織の中での自己の役割を理解して、セルフ・マネジメントができる能力を養う。 また、チーム医療における看護職の役割を理解し、協働・連携のマネジメント方法を学ぶ。			
回数	講義内容	学習方法	
第1回	マネジメントとは マネジメントプロセス	講義	
第2回	キャリアマネジメント	講義	
第3回	チーム運営 リーダーシップ・フォロアーシップ	講義	
第4回	看護管理過程 看護の質保証と看護管理	講義	
第5回	看護師に必要なマネジメント力	講義	
第6回	病棟での看護管理の実際1	講義	
第7回	病棟での看護管理の実際2	講義	
第8回 (45分)	まとめ	演習	
	終講試験		
【テキスト・参考書】 1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践1 看護管理 医学書院			
【成績評価方法】 筆記試験			
担当講師	実務経験がある講師	職種	看護師・専任教員

科目名 : 統合演習		(1)単位・(30)時間		履修時期 : 3年次 前期・後期	
【科目目標】 既習の知識と技術を統合し、対象の状態に応じた看護を実践する能力を学ぶ。					
回数	講義内容			学習方法	
第1回	状況アセスメント			演習	
第2回	状況アセスメント			演習	
第3回	多重課題のアセスメント:状況の判断、予測される問題			演習	
第4回	多重課題のアセスメント:看護看護上の問題・優先順位決定、学力試験			演習	
第5回	日常生活援助を中心とした多重課題のアセスメント:状況判断			演習	
第6回	日常生活援助を中心とした多重課題のアセスメント:看護上の問題			演習	
第7回	日常生活援助を中心とした多重課題のアセスメント:援助内容抽出			演習	
第8回	日常生活援助を中心とした多重課題のアセスメント:優先順位決定			演習	
第9回	日常生活援助を中心とした多重課題のアセスメント:援助計画立案			演習	
第10回	コミュニケーション力の強化			演習	
第11回	援助計画に基づいた技術練習			演習	
第12回	援助計画に基づいた技術練習			演習	
第13回	援助計画に基づいた技術練習			演習	
第14回	OSCE・リフレクション・評価			演習	
第15回	プロセスの振り返り:学びと課題の明確化			演習	
【テキスト・参考書】					
【成績評価方法】 学力試験 (50点) OSCE (50点)					
担当講師	実務経験がある講師			職種	専任教員

統合演習 実施方法

	内容	演習方法	留意点	評価方法	履修時期
統合演習 I	1 オリエンテーション 状況アセスメント①	個人学習	※簡単な重複事例(事例1) ↓	学力試験 シート I	4月
	2 状況アセスメント② 学力試験(15分)				
	3 事例のアセスメント				
	4 必要な援助内容と優先順位の決定(75分) 学力試験(15分)				
統合演習 II	5 事例のアセスメント	個人学習	※日常生活援助を中心とした 重複事例(事例2) ↓	学力試験 シート I	統合実習 までに 履修
	6 問題点の抽出	個人学習			
	7 必要な援助内容の抽出	個人学習			
	8 優先順位の決定(60分) 学力試験(30分)	個人学習			
	9 援助計画立案	個人学習			
	10 コミュニケーション力の強化	グループ学習			
	11 演習(実施に向けての練習)	グループ学習			
	12 演習(実施に向けての練習)	グループ学習			
	13 演習(実施に向けての練習)	グループ学習			
	14 実施・リフレクション・評価 (OSCE 20分・個人リフレクション 30分・ 担当教員による評価 5分)	個人学習			
	15	クラス			
個人レポート	個人	レポート			

実 習 目 的

あらゆる発達段階・健康段階にある対象を理解し、科学的根拠に基づいて、必要な看護を実践できる基礎的能力を養う。また、生命の尊厳を護り人権を尊重する倫理的態度を身につける。

実 習 目 標

1. あらゆる発達段階・健康段階にある対象を、身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな側面をもつ全人的な存在として理解できる。
2. 対象への看護の必要性が科学的根拠に基づいて判断できる。
3. 対象の多様な価値観を尊重し、自己決定を支える看護が実践できる。
4. 対象の安全を守り、プライバシーを尊重した看護ができる。
5. 保健・医療・福祉チームの一員における看護の機能や役割を理解し、関連職種との連携と調整の必要性がわかる。
6. 看護の実践を通して、自己の看護観を深めることができる。
7. 専門職業人としての自覚を持ち、看護を追求する研究的態度を身につける。:

臨地実習構成表

あらゆる発達段階・健康段階にある対象を理解し、科学的根拠に基づいて、必要な看護を実践できる基礎的能力を養う。また、生命の尊厳を護り、人権を尊重する倫理的態度を身につける。

分野	科目	単位数	時間数	目的	実習する内容	時期	実習場所
専門分野 I	基礎看護学実習	3	135	基礎看護学で学んだ理論や方法を臨床の場面において体験し、看護実践に必要な知識・技術・態度を養う。			
	I	1	45	問題解決思考を用いて援助の必要性を明確にし、生活を調整する看護を学ぶ。	生活援助の看護	1年後期	病院
	II	2	90	看護過程の展開技術を用いて健康回復へ向けた看護を学ぶ。	問題解決技法と看護	2年前期	病院
専門分野 II	成人看護学実習	6	270	成人看護学で学んだ理論や方法を基礎とし、成人看護の実践に必要な知識・技術・態度を養う。			
	I	2	90	身体侵襲の大きい治療を受けた急性・回復状態にある患者・家族を理解し、回復過程に応じた援助を学ぶ。	危機的状況から回復の過程をたどる患者の看護	3年次	病院
	II	2	90	生涯疾病のコントロールが必要な患者・家族を理解し、患者の療養生活を支える生活調整への看護を学ぶ。	生涯、生活をコントロールする必要のある患者の看護	2・3年次	病院
	III	2	90	死を免れない患者・家族を理解し、その人らしい生を全うすることを支える看護を学ぶ。	死をまぬがれない患者の看護	2・3年次	病院 寺院 葬儀社
	老年看護学実習	4	180	高齢者における健康の保持・増進とあらゆる健康上の問題を総合的に捉え、老年看護の実践に必要な知識・技術・態度を養う。			
	I	2	60	地域で生活している高齢者と関わり、老化の個別性を理解する。	地域で生活する高齢者の理解	2年次	老人大学 宅老所 いきいき百歳体操
			30	施設に入所している高齢者への生活の援助を通して、高齢者の理解を深める。	施設で生活している高齢者の理解	2年次	介護老人保健施設 介護老人福祉施設
II	2	90	老化や健康障害により生活機能が低下した高齢者を理解し、有存機能を活かした看護を学ぶ。	健康障害のある高齢者の回復経過にそった看護	2・3年次	病院	

分野	科目	単位数	時間数	目的	実習する領域	時期	実習場所
専門分野Ⅱ	小児看護学実習	2	90	小児各期における対象を理解し、成長発達に応じた養護と小児看護の実践に必要な知識・技術・態度を養う。			
	小児看護学実習	2	22.5	子どもの成長発達の特徴を理解し、発達段階に応じた養護の方法を学ぶ。	小児の成長発達の理解	3年次	認定こども園
			7.5				保健センター
			7.5				アフタースクール
			7.5	子どもが健やかに育つための地域の支援の実際を学ぶ。	障がい児の理解	3年次	小学校
			7.5	こども発達支援センター			
	37.5	疾病や入院が子どもや家族に及ぼす影響を理解し、入院生活を送っている子どもの成長発達をふまえた看護を学ぶ。	健康障害のある小児の看護	3年次	病院		
	母性看護学実習	2	90	妊娠・産婦・褥婦・新生児の特徴を理解し、産褥期の順調な経過および親子関係形成に必要な知識・技術・態度を養う。			
	母性看護学実習	2	22.5	母子の生活が円滑に行われるための地域の支援体制を学ぶ。	妊婦・褥婦・新生児の理解	2・3年次	保健センター 母親学級 子育て学習センター
			67.5	産婦・褥婦・新生児の特徴を理解し、産褥期の順調な経過および親子関係形成にむけた看護を学ぶ。	妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護		病院 診療所
精神看護学実習	2	90	あらゆる精神現象にある対象との関わりを通して、精神に障害がある対象を理解し、精神状態に応じた看護実践に必要な知識・技術・態度を養う。				
		7.5	精神科のデイケアの意義や役割を理解し、精神障害者の社会復帰支援について学ぶ。	通所する精神障害者の理解	2・3年次	デイケア	
		82.5	施設で生活している精神に障害をもつ患者の特徴を理解し、治療的関わりを通じた看護を学ぶ。	精神障害者の看護	2・3年次	病院	
統合分野	在宅看護論実習	2	90	地域で生活しながら療養する人とその家族のケアニーズを理解し、対象に応じた看護実践に必要な知識・技術・態度を養う。			
	在宅看護論実習	2	60	在宅療養する人とその家族の生活を理解し、主体性を尊重しながら生活を豊かにするための看護を学ぶ。	在宅療養者の看護	3年次	訪問看護ステーション
			30	在宅療養を必要とする対象の理解、各種居宅サービスの機能と役割、ケアマネジメントの実際と社会資源の活用を学ぶ。	地域での支援の理解	3年次	地域包括支援センター 居宅介護支援事業所
	統合実習	2	90	医療チームの中での協働・連携について理解し、看護専門職者としての責任と判断力を養う。	看護管理の実際 の理解・多重課題の看護	3年次	病院
合計		23	1035				

【 専門基礎分野 】 フィジカルアセスメント

科目名	講義	DVD視聴	校 内 実 習	
			デモンストレーションのみ	実施
フィジカルアセスメント	フィジカルイグザミネーション 状態別の観察 検査データの読み方 記録、報告 意識レベル	・総論 問診、視診のポイント ・触診、打診、聴診の ポイント ・呼吸器のアセスメント その1 その2 ・循環器のアセスメント	血圧測定 (下腿、大腿) 湯タンポ (ゴム) 温電法(タオル) 氷枕、氷嚢	呼吸測定 血圧測定 (上腕) 脈拍測定 体温測定 (腋窩) 瞳孔測定・対光反射 呼吸音の聴取 心音の聴取 パルスオキシメータ 腸蠕動音の聴取 腹囲測定 身体計測 (握力、角度計)

【 専門分野Ⅰ 】 基礎看護学

科目名	講義	DVD視聴	校 内 実 習	
			デモンストレーション	実施
安全を守る技術	分泌物、汚物の取り扱い 創傷処置 消毒薬の特徴	スタンダードプリコーション	ガウンテクニック チューブ包帯	手指の消毒 (手洗い) スタンダードプリコーション 滅菌操作 (鉗子、鑷子の取り扱い、 滅菌パックの開け方、滅菌ドレープの 広げ方、カストの蓋の開け方など) 滅菌手袋の装着 包帯法 (巻軸、伸縮) * 抑制
生活援助技術Ⅰ	体位・移動 活動を促す援助 (レクリエーション・散歩など)	体位変換		安楽な体位の工夫 基本移動 (水平、上下) 体位変換 仰臥位⇔側臥位 臥位⇔端坐位 端坐位⇔立位 移乗・移送 車椅子 * スライディングボード * ストレッチャー
	環境	環境		環境整備 ベッドメイキング ・シーツ交換 ・臥床患者のシーツ交換
生活援助技術Ⅱ	活動・休息 休息を促す援助(ナイトケア・足浴 リラクゼーション)			
	衣生活・清潔 寝衣の工夫 全身の清潔 入浴、シャワー浴 耳、目、爪の清潔 ドライシャンプー 結髪 髭剃り 爪切り	洗髪・結髪		・前開パジャマの交換 * 丸首パジャマの交換 全身清拭 部分浴 (足浴) 洗髪 陰部洗浄 口腔ケア

科目名		講義	DVD視聴	校 内 実 習	
				デモンストレーション	実施
生活援助技術Ⅲ	食事・排泄	排泄用具の選択		摘便	食事の援助 便器の挿入 尿器の挿入
	浣腸・導尿	高圧浣腸	グリセリン浣腸 導尿		グリセリン浣腸 一時的導尿 膀胱留置カテーテル * 男性の一時的導尿
診療に伴う技術Ⅰ	検査	検体の取り扱い方			尿比重測定（屈折計） 検尿（テストテープ法） 静脈血採血（注射器・真空採血）
	与薬	外用薬 点眼 麻薬の取り扱いと管理 皮内注射 静脈内注射 経口与薬（散薬）		坐薬の挿入	経口与薬（水薬） 皮下注射（上腕後面） 筋肉内注射（三角筋・中殿筋） 点滴静脈内注射 （セットの接続、固定、調整） 薬液の準備（バイアル・アンプル）
診療に伴う技術Ⅱ	吸引・吸入・洗浄	吸入・吸引・洗浄の原理 排痰ケア（体位ドレナージを含む）		ベンチュリーマスク	吸引（気管内、口腔内） 酸素吸入（ボンベ、中央配管） 超音波ネブライザー
	安静・食事療法				
	輸液・輸血療法	水分出納の管理 中心静脈栄養の管理 輸血管理			
	救急法				止血法 人工呼吸（バックバルブマスク） 気道確保 胸骨圧迫 AED
診療に伴う技術Ⅲ	周手術期	T字帯			
	ME機器	人工呼吸器の管理 除細動器 心電図モニター 輸液ポンプの管理 シリンジポンプの管理			輸液ポンプの操作 シリンジポンプの操作 心電図の撮影 人工呼吸器の設定確認
	看護過程	看護過程の展開方法			
	看護過程演習	看護過程の展開（思考と技術）			I：脳梗塞 II：COPD

【 専門分野Ⅱ 】 成人看護学

科目	講義	DVD視聴	校内実習	
			デモンストレーション	実施
成人看護学概論				
成人看護学方法Ⅰ				
成人看護学方法Ⅱ (クリティカルケア)	肩枕 ショック体位 モニター管理 心電図の読影 徐細動器の使用と管理			病期経過を踏まえた看護過程 ・心筋梗塞
成人看護学方法Ⅲ (周手術期)	術後ベッドの作成 手術を受ける患者の援助 集中治療を受ける患者の援助 ストーマケア 胸腔・腹腔ドレーン管理		臍処置 含嗽 術前訓練 創傷処置 ドレーン管理	術後の早期離床 病期経過を踏まえた看護過程 ・胃がん
成人看護学方法Ⅳ (リハビリテーション期)	嚥下評価 嚥下訓練 経管栄養の管理		歩行器・杖歩行の使用 方法 経管栄養チューブの挿入と固定 自具の工夫 誤嚥予防の体位	機能訓練 関節可動域訓練 三角巾の使い方 片麻痺患者の寝衣交換 片麻痺患者の移動
成人看護学方法Ⅴ (慢性期)	指導技術 インスリンの自己注射	インスリンの自己注射		簡易血糖測定 個人指導の展開 病期経過を踏まえた看護過程 ・糖尿病
成人看護学方法Ⅵ (ターミナルケア)	ペインコントロール クリーンルームの整備 リンパマッサージ			病期経過を踏まえた看護過程 ・肺がん

【 専門分野Ⅱ 】 老年看護学

科目	講義	DVD視聴	校内実習	
			デモンストレーション	実施
老年看護学概論		高齢者の生理機能 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ		老化体験
老年看護学方法Ⅰ				
老年看護学方法Ⅱ	・補聴器の取り扱い			・おむつ交換 ・義歯の取り扱い ・口腔ケア
老年看護学方法Ⅲ	・手術を受ける高齢者			・老化に伴う機能低下と発達課題を ふまえた看護過程 (胸椎・腰椎圧迫骨折)

【 専門分野Ⅱ 】 小児看護学

科目名	講義	DVD視聴	校内実習	
			デモンストレーション	実施
小児看護学概論				
小児看護方法Ⅰ				哺乳、排気
小児看護方法Ⅱ	採尿パック 腰椎穿刺時の介助 採血時の介助・固定 内服薬の介助・工夫 薬液吸入		小児の抑制 身体計測	輸液のシーネ固定
小児看護方法Ⅲ	プレパレーション 吸引 酸素療法の管理 小児の意識レベル		胸骨圧迫	
小児看護方法Ⅲ (看護過程)		喘息発作で入院した小児の 事例展開		成長発達を踏まえた 看護過程 ・気管支喘息

【 専門分野Ⅱ 】 母性看護学

科目	講義	DVD視聴	校内実習	
			デモンストレーション	実施
母性看護学概論		母性の発達 生命の誕生		
母性看護学方法Ⅰ			家族計画	妊婦体験
母性看護学方法Ⅱ (妊娠期)	体位・胎向 児心音の聴取 NST 腹帯			
母性看護学方法Ⅱ (分娩期)	分娩スタイル 分娩監視装置 バルトグラム 胎盤計測	新しい家族誕生の支援1・2		呼吸法
母性看護学方法Ⅲ (産褥期)	産褥体操 乳頭・乳輪マッサージ 子宮底測定 母子手帳の記述 出生届		子宮底測定 乳房マッサージ	
母性看護学方法Ⅲ (新生児期)	排気の仕方 肛門刺激 鼻腔内・口腔内吸引 黄疸測定		臍処置	身体計測 沐浴 衣服の着脱 オムツ交換 新生児の抱き方・寝かせ方
看護過程				ウエルネスの看護過程 ・経膈分娩、産褥2日目の初産婦

【 専門分野Ⅱ 】 精神看護学

科目	講義	DVD視聴	校内実習	
			デモンストレーション	実施
精神看護学概論				
精神看護学方法Ⅰ	プロセスレコード			
精神看護学方法Ⅱ (看護)	治療的環境 心理テスト 精神療法 カウンセリング 緊急時の対応 服薬管理方法 SST			病院見学
精神看護学方法Ⅱ	レクリエーション療法 作業療法			レクリエーションの企画・運営
精神看護学方法Ⅲ				精神疾患患者の看護過程 ・統合失調症

【 統合分野 】 在宅看護論

科目	講義	DVD視聴	校内実習	
			デモンストレーション	実施
在宅看護概論		訪問看護のイメージ		
在宅看護方法Ⅰ	住宅改修 体圧分散マット 在宅経管栄養法 (HEN・PEG) トロミ剤 栄養補助食品 在宅中心静脈栄養法 ポート管理 在宅輸液ポンプ 褥瘡予防	訪問マナー 在宅酸素療法(HOT) 在宅人工呼吸療法 (TPPV・NPPV) 在宅経管栄養法 (HEN・PEG) 褥瘡	福祉用具の実際 簡易体圧測定器での体圧測定	接遇 訪問マナー 簡易洗髪器での洗髪 洗髪バットの作成、洗髪
在宅看護方法Ⅱ	社会資源の活用	ALS患者のコミュニケーション		エコマップ
在宅看護方法Ⅲ				在宅療養者の看護過程 ・COPD ・独居高齢者 訪問技術の実践

看護師教育の技術項目と卒業時の到達度

■卒業時の到達度レベル

I:単独で実施できる II:看護師・教員の指導のもとで実施できる III:学習演習で実施できる IV:知識としてわかる

項目	技術の種類	国の到達度	本校の到達度	関連科目
1. 環境調整技術	1 患者にとって快適な病床環境をつくることができる	I	I	生活援助技術Ⅰ 環境
	2 基本的なベットメイキングができる	I	I	生活援助技術Ⅰ 環境
	3 臥床患者のリネン交換ができる	II	II	生活援助技術Ⅰ 環境
2. 食事の援助技術	1 患者の状況に合わせて食事介助ができる(嚥下障害のある患者を除く)	I	I	生活援助技術Ⅲ 食事・排泄
	2 患者の食事摂取状況(食行動、摂取方法、摂取量)をアセスメントできる	I	I	看護過程演習
	3 経管栄養法を受けている患者の観察ができる	I	I	成人看護学方法Ⅳ
	4 患者の栄養状況をアセスメントできる	II	II	看護過程演習
	5 患者の疾患に応じた食事内容が指導できる	II	II	成人看護学方法Ⅴ
	6 患者の個性を反映した食生活の改善を計画できる	II	II	看護過程
	7 患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入ができる	II	II	成人看護学方法Ⅳ
	8 モデル人形での経鼻胃チューブの挿入・確認ができる	III	II	成人看護学方法Ⅳ
	9 電解質データの基準値からの逸脱がわかる	IV	IV	フィジカルアセスメント
	10 患者の食生活上の改善点がわかる	IV	IV	看護過程演習
3. 排泄援助技術	1 自然な排便を促すための援助ができる	I	I	生活援助技術Ⅲ 食事・排泄
	2 自然な排尿を促すための援助ができる	I	I	生活援助技術Ⅲ 食事・排泄
	3 患者に合わせた便器・尿器を選択し、排泄援助ができる	I	I	生活援助技術Ⅲ 食事・排泄
	4 膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察ができる	I	I	生活援助技術Ⅲ 浣腸・導尿
	5 ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる	II	II	生活援助技術Ⅲ 食事・排泄
	6 患者のおむつ交換ができる	II	II	老年看護学方法Ⅱ
	7 失禁をしている患者のケアができる	II	II	老年看護学方法Ⅱ
	8 膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理ができる	II	II	生活援助技術Ⅲ 浣腸・導尿
	9 モデル人形に導尿または膀胱留置カテーテルの挿入ができる	III	III	生活援助技術Ⅲ 浣腸・導尿
	10 モデル人形にグリセリン浣腸ができる	III	II	生活援助技術Ⅲ 浣腸・導尿
	11 失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護がわかる	IV	IV	老年看護学方法Ⅱ
	12 基本的な摘便の方法、実施上の留意点がわかる	IV	IV	生活援助技術Ⅲ 食事・排泄 在宅看護方法Ⅰ
	13 ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点がわかる	IV	IV	成人看護学方法Ⅲ
4. 活動・休息援助技術	1 患者を車椅子で移送できる	I	I	生活援助技術Ⅰ 体位・移動
	2 患者の歩行・移動介助ができる	I	I	生活援助技術Ⅰ 体位・移動
	3 廃用症候群のリスクをアセスメントできる	I	I	老年看護学方法Ⅱ
	4 入眠・睡眠を意識した日中の活動の援助ができる	I	I	生活援助技術Ⅱ 活動・休息
	5 患者の睡眠状況をアセスメントし、基本的な入眠を促す援助を計画できる	I	I	生活援助技術Ⅱ 活動・休息
	6 臥床患者の体位変換ができる	II	II	生活援助技術Ⅰ 体位・移動
	7 患者の機能に合わせてベッドから車椅子への移乗ができる	II	II	生活援助技術Ⅰ 体位・移動
	8 廃用症候群予防のための自動・他動運動ができる	II	II	老年看護学方法Ⅲ
	9 目的に応じた安静保持の援助ができる	II	II	診療に伴う技術Ⅱ 安静療法
	10 体動制限による苦痛を緩和できる	II	II	生活援助技術Ⅰ 体位・移動
	11 患者をベッドからストレッチャーへ移乗できる	II	II	生活援助技術Ⅰ 体位・移動
	12 患者のストレッチャー移送ができる	II	II	生活援助技術Ⅰ 体位・移動

	13	関節可動域訓練ができる	II	II	成人看護学方法IV
	14	廃用症候群予防のための呼吸機能を高める援助がわかる	IV	IV	老年看護学方法II
5. 清潔・衣生活援助技術	1	入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる	I	I	生活援助技術II 衣生活・清潔
	2	患者の状況に合わせた足浴・手浴ができる	I	I	生活援助技術II 衣生活・清潔
	3	清拭援助を通じて、患者の観察ができる	I	I	生活援助技術II 衣生活・清潔
	4	洗髪援助を通じて、患者の観察ができる	I	I	生活援助技術II 衣生活・清潔
	5	口腔ケアを通じて、患者の観察ができる	I	I	生活援助技術II 衣生活・清潔
	6	患者が身だしなみを整えるための援助ができる	I	I	生活援助技術II 衣生活・清潔
	7	持続静脈内点滴注射を実施していない臥床患者の寝衣交換ができる	I	I	生活援助技術II 衣生活・清潔
	8	入浴の介助ができる	II	II	生活援助技術II 衣生活・清潔
	9	陰部の清潔保持の援助ができる	II	II	生活援助技術II 衣生活・清潔
	10	臥床患者の清拭ができる	II	II	生活援助技術II 衣生活・清潔
	11	臥床患者の洗髪ができる	II	II	生活援助技術II 衣生活・清潔
	12	意識障害のない患者の口腔ケアができる	II	II	生活援助技術II 衣生活・清潔
	13	患者の病態・機能に合わせた口腔ケアを計画できる	II	II	老年看護学方法II
	14	持続静脈内点滴注射実施中の患者の寝衣交換ができる	II	II	統合演習
	15	沐浴が実施できる	II	II	母性看護学方法III
6. 呼吸・循環を整える技術	1	酸素吸入療法を受けている患者の観察ができる	I	I	診療に伴う技術II 吸引・吸入・洗浄
	2	患者の状態に合わせた温罨法・冷罨法が実施できる	I	I	フィジカルアセスメント
	3	患者の自覚症状に配慮しながら体温調節の援助ができる	I	I	フィジカルアセスメント
	4	抹消循環を促進するための部分浴・罨法・マッサージができる	I	I	フィジカルアセスメント
	5	酸素吸入療法が実施できる	II	II	診療に伴う技術II 吸引・吸入・洗浄
	6	気道内加湿ができる	II	II	診療に伴う技術II 吸引・吸入・洗浄
	7	モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施できる	III	II	診療に伴う技術II 吸引・吸入・洗浄
	8	モデル人形で、気管内吸引ができる	III	III	診療に伴う技術II 吸引・吸入・洗浄
	9	モデル人形あるいは学生間で体位ドレナージを実施できる	III	III	診療に伴う技術II 吸引・吸入・洗浄
	10	酸素ポンベの操作ができる	III	II	診療に伴う技術II 吸引・吸入・洗浄
	11	気管内吸引時の観察点がわかる	IV	III	診療に伴う技術II 吸引・吸入・洗浄
	12	酸素の危険性を認識し、安全管理の必要性がわかる	IV	III	診療に伴う技術II 吸引・吸入・洗浄
	13	人工呼吸器装着中の患者の観察点がわかる	IV	IV	診療に伴う技術III ME機器
	14	低圧胸腔内持続吸引中の患者の観察点がわかる	IV	IV	成人看護学方法III
	15	循環機能のアセスメントの視点がわかる	IV	IV	成人看護学方法II
7. 創傷管理技術	1	患者の褥創発生の危険性をアセスメントできる	I	I	在宅看護方法II
	2	褥創予防のためのケアが計画できる	II	II	在宅看護方法III
	3	褥創予防のためのケアが実施できる	II	II	在宅看護方法III
	4	患者の創傷の観察ができる	II	II	在宅看護方法II
	5	学生間で基本的な包帯法が実施できる	III	II	安全を守る技術
	6	創傷処置のための無菌操作ができる(ドレーン類の挿入部の処置も含む)	III	II	安全を守る技術・統合演習
	7	創傷処置に用いられる代表的な消毒薬の特徴がわかる	IV	IV	安全を守る技術
	1	経口薬(バツカル錠・内服薬・舌下錠)の服薬後の観察ができる	II	II	診療に伴う技術I 与薬
	2	経皮・外用薬の投与前後の観察ができる	II	II	診療に伴う技術I 与薬
	3	直腸内与薬の投与前後の観察ができる	II	II	診療に伴う技術I 与薬
	4	点滴静脈内注射をうけている患者の観察点がわかる	II	II	診療に伴う技術II 輸液・輸血療法

8. 与薬の技術	5	モデル人形に直腸内与薬が実施できる	Ⅲ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅰ 与薬	
	6	点滴静脈内注射の輸液の管理ができる	Ⅲ	Ⅱ	診療に伴う技術Ⅱ 輸液・輸血療法	
	7	モデル人形または学生間で皮下注射が実施できる	Ⅲ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅰ 与薬	
	8	モデル人形または学生間で筋肉注射が実施できる	Ⅲ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅰ 与薬	
	9	モデル人形に点滴静脈内注射が実施できる	Ⅲ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅰ 与薬	
	10	輸血ポンプの基本的な操作ができる	Ⅲ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅲ ME機器	
	11	経口薬の種類と服用方法がわかる	Ⅳ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅰ 与薬	
	12	経皮・外用薬の与薬方法がわかる	Ⅳ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅰ 与薬	
	13	中心静脈内栄養をうけている患者の観察点がわかる	Ⅳ	Ⅳ	診療に伴う技術Ⅱ 輸液・輸血療法	
	14	皮内注射後の観察点がわかる	Ⅳ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅰ 与薬	
	15	皮下注射後の観察点がわかる	Ⅳ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅰ 与薬	
	16	筋肉内注射後の観察点がわかる	Ⅳ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅰ 与薬	
	17	静脈内注射の実施方法がわかる	Ⅳ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅰ 与薬	
	18	薬理作用をふまえた静脈内注射の危険性がわかる	Ⅳ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅰ 与薬	
	19	静脈内注射実施中の異常な状態がわかる	Ⅳ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅱ 輸液・輸血療法	
	20	抗生物質を投与されている患者の観察点がわかる	Ⅳ	Ⅳ	薬理学	
	21	インシュリン製剤の種類に応じた投与方法がわかる	Ⅳ	Ⅳ	成人看護学方法Ⅳ	
	22	インシュリン製剤を投与されている患者の観察点がわかる	Ⅳ	Ⅳ	成人看護学方法Ⅳ	
	23	麻薬を投与されている患者の観察点がわかる	Ⅳ	Ⅳ	成人看護学方法Ⅵ	
	24	薬剤等の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む)方法がわかる	Ⅳ	Ⅳ	診療に伴う技術Ⅰ 与薬 診療に伴う技術Ⅱ 輸液・輸血療法	
	25	輸血が生体に及ぼす影響をふまえ、輸血前・中・後の観察点がわかる	Ⅳ	Ⅳ	輸液・輸血療法	
	9. 救命救急処置技術	1	緊急なことが生じた場合にはチームメンバーへの応援要請ができる	Ⅰ	Ⅰ	診療に伴う技術Ⅱ 救急法
		2	患者の意識状態を観察できる	Ⅱ	Ⅱ	診療に伴う技術Ⅱ 救急法
		3	モデル人形で気道確保が正しくできる	Ⅲ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅱ 救急法
		4	モデル人形で人工呼吸が正しく実施できる	Ⅲ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅱ 救急法
5		モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施できる	Ⅲ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅱ 救急法	
6		除細動の原理がわかりモデル人形にAEDを用いて正しく実施できる	Ⅲ	Ⅲ	診療に伴う技術Ⅱ 救急法	
7		意識レベルの把握方法がわかる	Ⅳ	Ⅲ	フィジカルアセスメント	
8		止血法の原理がわかる	Ⅳ	Ⅳ	診療に伴う技術Ⅱ 救急法	
10. 症状・生体機能管理技術	1	バイタルサインが正確に測定できる	Ⅰ	Ⅰ	フィジカルアセスメント	
	2	正確に身体計測ができる	Ⅰ	Ⅰ	フィジカルアセスメント	
	3	患者の一般状態の変化に気づくことができる	Ⅰ	Ⅰ	フィジカルアセスメント	
	4	系統的な症状の観察ができる	Ⅱ	Ⅱ	フィジカルアセスメント	
	5	バイタルサイン・身体測定データ・症状などから患者の状態をアセスメントできる	Ⅱ	Ⅱ	看護過程演習	
	6	目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取扱いができる	Ⅱ	Ⅱ	診療に伴う技術Ⅰ 検査	
	7	簡易血糖測定ができる	Ⅱ	Ⅱ	成人看護学方法Ⅴ	
	8	正確な検査が行えるための患者の準備ができる	Ⅱ	Ⅱ	診療に伴う技術Ⅰ 検査	
	9	検査の介助ができる	Ⅱ	Ⅱ	診療に伴う技術Ⅰ 検査	
	10	検査後の安静保持の援助ができる	Ⅱ	Ⅱ	診療に伴う技術Ⅰ 検査	
	11	検査前、中、後の観察ができる	Ⅱ	Ⅱ	診療に伴う技術Ⅰ 検査	
	12	モデル人形または学生間で静脈血採血が実施できる	Ⅲ	Ⅱ	診療に伴う技術Ⅰ 検査	
	13	血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方がわかる	Ⅳ	Ⅱ	診療に伴う技術Ⅰ 検査	
	14	身体侵襲を伴う検査の目的・方法・検査が生体に及ぼす影響がわかる	Ⅳ	Ⅳ	診療に伴う技術Ⅰ 検査	

11. 感染予防技術	1	スタンダード・プリコーション(標準予防策)に基づく手洗いが実施できる	I	I	安全を守る技術
	2	必要な防護用具(手袋、ゴーグル、ガウン等)の装着ができる	II	II	安全を守る技術
	3	使用した器具の感染防止の取扱いができる	II	II	安全を守る技術
	4	感染性廃棄物の取扱いができる	II	II	安全を守る技術
	5	無菌操作が確実にできる	II	II	安全を守る技術
	6	針刺し事故防止の対策が実施できる	II	II	診療に伴う技術 I 与薬
	7	針刺し事故後の感染防止の方法がわかる	IV	IV	安全を守る技術
12. 安全管理の技術	1	インシデント・アクシデントが発生した場合には、速やかに報告できる	I	I	安全を守る技術
	2	災害が発生した場合には、指示にしたがって行動がとれる	I	I	災害看護
	3	患者を誤認しないための防止策を実施できる	I	I	医療安全
	4	患者の機能や行動特性に合わせて療養環境を安全に整えることができる	II	I	診療に伴う技術 I 環境 医療安全
	5	患者の機能や行動特性に合わせて転倒・転落・外傷予防ができる	II	II	医療安全
	6	放射線暴露の防止のための行動がとれる	II	II	治療学 放射線療法
	7	誤薬防止の手順にそった与薬ができる	III	III	診療に伴う技術 I 与薬
	8	人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策がわかる	IV	IV	成人看護学方法VI
13. 安楽確保の技術	1	患者の状態に合わせて安楽に体位を保持することができる	II	II	生活援助技術 I 体位・移動
	2	患者の安楽を促進するためのケアができる	II	II	生活援助技術 I 体位・移動
	3	患者の精神安寧を保つための工夫を計画できる	II	I	生活援助技術 II 活動・休息

2020.1.